3. モニタリング調査結果報告

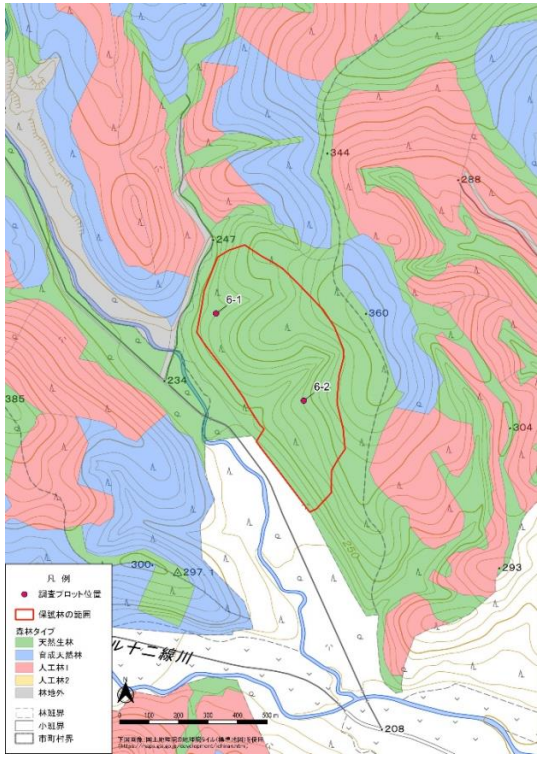
3-3.希少個体群保護林（32箇所）

3-3.希少個体群保護林 (1/6)

No	保護林ID	保護林名	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・対応(案)
6	30901	前珊瑠エゾマツ遺伝資源希少個体群保護林 (27.51ha)	エゾマツ	H30	・森林概況調査 （2箇所）	・一部で風倒木が確認されたが、林況に大きな変化はなかった。 ・エゾマツの天然更新はやや少なく、このことへの留意が必要である。	5年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
7	30902	然別アカエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林 (20.00ha)	アカエゾマツ	H30	・資料調査 ・森林概況調査 （2箇所） ・森林生態系多様性基礎調査 （1箇所）	・一部で風倒木が確認されたが、林況に大きな変化はなく健全な状態であった。 ・アカエゾマツの大径木及び天然更新も確認された。	5年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
8	30903	風連トドマツ遺伝資源希少個体群保護林 (7.9ha)	トドマツ	H30	・森林概況調査 （2箇所）	・風倒木によるギャップが確認されたが、林況に大きな変化はなく健全な状態であった。 ・トドマツの更新木は多数確認されたことから天然更新は順調であった。	5年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
9	30904	朝日オオバボダイジュ遺伝資源希少個体群保護林 (4.41ha)	オオバボダイジュ	H30	・森林詳細調査 （2箇所）	・林況に大きな変化はなく、健全な状態であった。 ・オオバボダイジュの天然更新も良好であり、概ね健全な、更新も期待できる林分である。	5年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
10	30905	朝日ウダイカンバ等遺伝資源希少個体群保護林 (15.86ha)	ウダイカンバ、ミズナラ	H30	・森林概況調査 （2箇所）	・ミズナラの生育は健全であったが、ウダイカンバは衰弱木が多く枯死木も散見され、天然更新はみられなかった。 ・自然遷移の一環と考えられるが、ウダイカンバの生育状況には留意が必要である。	5年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
11	30906	上士別オオバボダイジュ遺伝資源希少個体群保護林 (9.81ha)	オオバボダイジュ	H30	・森林概況調査 （2箇所）	・林況に大きな変化はなく、高木層のオオバボダイジュは健全な状態であった。 ・全体として天然更新の状況は良好であった。	5年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

6 前珊瑠エゾマツ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(2箇所)



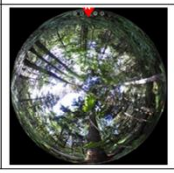
エゾマツの稚樹

保護林名		前珊瑠エゾマツ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		エゾマツ			
プロットNo.		6-1		6-2	
旧No.		30901-1		30901-2	
調査日		2018/7/28	2023/6/7	2018/7/28	2023/6/7
プロット情報	標高	281m		291m	
	斜面方位、傾斜(平均)	NW 18°		E 10°	
	局所地形	山腹平衡斜面		平坦尾根	
林分状況	【高】主要構成樹種	トドマツ、ミズナラ	トドマツ	トドマツ、エゾマツ	トドマツ
	【高】樹高	20m以上	20～38m	20m以上	18～30m
	【高】植被率	–	80%	–	70%
	【高】DBH	30cm以上	20～74cm	30cm以上	18～63cm
	【亜】主要構成樹種	トドマツ、エゾイタヤ	オオバボダイジュ	シナノキ、エゾイタヤ	アカイタヤ
	【亜】樹高	10m以上	15～19m	10m以上	8～14m
	【亜】植被率	–	30%	–	50%
	【亜】DBH	10～20cm	10～30cm	10～20cm	8～12cm
	【低】主要構成樹種	トドマツ、ホオノキ	オオバボダイジュ	エゾイタヤ、トドマツ	トドマツ
	【低】樹高	1～5m	2～8m	1～5m	2～7m
	【低】植被率	–	40%	–	30%
	【低】DBH	5cm未満	2～10cm	5～10cm	3～6cm
	最大樹高樹種 樹高	– –	エゾマツ 38.0m	– –	エゾマツ 30.0m
	最大直径樹種 直径	– –	エゾマツ 73.5cm	– –	エゾマツ 62.9cm
	保護対象種の本数割合	50～80%	20%以下	50～80%	20%以下
	気象害 病虫害	風害(軽微) –	風害(小) –	風害(軽微) –	風害(軽微) –
	気象害等のコメント	トドマツ大径木の風倒あり	–	–	–
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡 その他痕跡 痕跡の程度	シカ道、糞、食痕 – 軽微	角研ぎ、食痕 – 軽微	食痕 クマゲラ(食痕) 軽微	糞 ウサギ(食痕) 軽微
	痕跡のコメント	–	–	シカの下層植生食痕わずかにあり	–
林床植生	主要構成種 (主体は80%以上)	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	低木類主体
	優占する植物種	チシマザサ	チシマザサ	クマイザサ	エゾユズリハ
	植被率 植生高	密生 0.5～1.5m	80% 0.1～2.2m	密生 0.5～1.5m	80% 0.1～2.0m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種:普通 保護対象種以外:普通	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種:普通 保護対象種以外:多い
保護林の状況		エゾマツは少なくトドマツが多め。倒木上にエゾマツ天然更新あり。	エゾマツの立木はやや少なく倒木も見られるが、概ね健全な林分であった。実生はプロット内外の倒木上で見られる。	トドマツが優占するがエゾマツの多いところもある。エゾマツの天然更新は倒木上に局所的。	エゾマツの本数は少ないが、個体は生育良好。その他の樹種の生育も健全であり、天然更新も多く見られる。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然撹乱 カ:その他 ー:特になし		確認された影響[–] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[–] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[–] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[–] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

プロット6-1

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		一部風倒木がみられるが、被害の規模は小さい。
天頂			大きな変化はない。

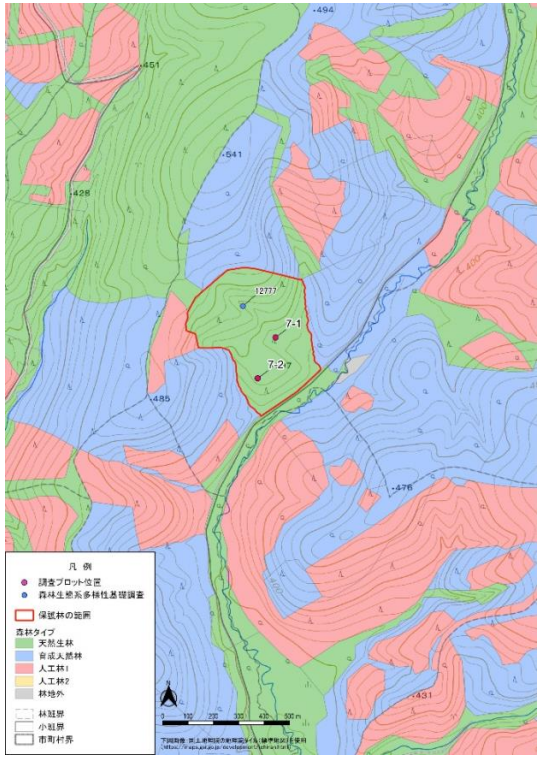
プロット6-2

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

確認された影響[特になし]
- 一部で風倒木が確認されたが、林況に大きな変化はなく健全な状態であった。
- その他広葉樹の天然更新は旺盛であったが、エゾマツの天然更新はやや少ない。
- エゾマツの天然更新については留意が必要である。
- 更新状況を注視つつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

7 然別アカエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査	保護林森林概況調査(2箇所)、森林生態系多様性基礎調査(1箇所)



保護林名		然別アカエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		アカエゾマツ			
プロットNo.		7-1		7-2	
IBNo.		30902-1		30902-2	
調査日		2018/6/18	2023/6/7	2018/6/18	2023/6/7
プロット情報	標高	395m		395m	
	斜面方位、傾斜(平均)	SE 6°		SW 11°	
	局所地形	山腹侵食面		山腹凸斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ
	【高】樹高	20m以上	18～28m	20m以上	15～30m
	【高】植被率	-	50%	-	70%
	【高】DBH	30cm以上	16～72cm	30cm以上	18～83cm
	【亜】主要構成樹種	アカエゾマツ、ナナカマド	アカエゾマツ	トドマツ	トドマツ
	【亜】樹高	10～20m	9～12m	10～20m	11～14m
	【亜】植被率	-	20%	-	30%
	【亜】DBH	10～20cm	8～14cm	10cm未満	9～12cm
	【低】主要構成樹種	オオカメノキ	オオカメノキ	トドマツ、アカエゾマツ	トドマツ
	【低】樹高	1～5m	2～4m	1～5m	2～6m
	【低】植被率	-	20%	-	10%
	【低】DBH	5cm未満	2～4cm	5cm未満	2～5cm
	最大樹高樹種	-	アカエゾマツ	-	アカエゾマツ
	樹高	-	28.1m	-	30.0m
	最大直径樹種	-	アカエゾマツ	-	ミズナラ
	直径	-	71.6cm	-	78.8cm
	保護対象種の本数割合	80%以上	80%以上	80%以上	20～50%
	気象害	-	-	-	-
	病虫害	-	-	-	-
	気象害等のコメント	-	-	-	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	-	糞	-	食痕
	その他痕跡	-	-	-	-
	痕跡の程度	-	軽微	-	軽微
	痕跡のコメント	-	-	-	-
林床植生	主要構成種（主体は80%以上）	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体
	優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
	植被率	密生	90%	密生	90%
	植生高	2.0m以上	0.1～2.4m	2.0m以上	0.1～2.3m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種：少ない 保護対象種以外：普通	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種：少ない 保護対象種以外：普通
保護林の状況		-	アカエゾマツのほぼ純林で健全であった。亜高木層以下の植被率は乏しいが、アカエゾマツをはじめ天然更新は普通に見られる。	-	健全や林分であった。アカエゾマツは各階層に見られ、天然更新は順調に行われている。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:湿暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 一:特になし		確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

プロット7-1

項目	H23	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向			大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向			大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

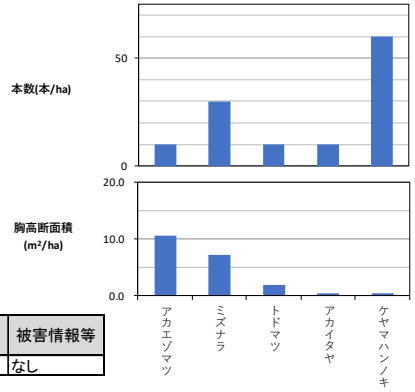
プロット7-2

項目	H23	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向			大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向			大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

森林生態系多様性基礎調査　ID12777

ID12777　磁北方向

ID12777　磁南方向

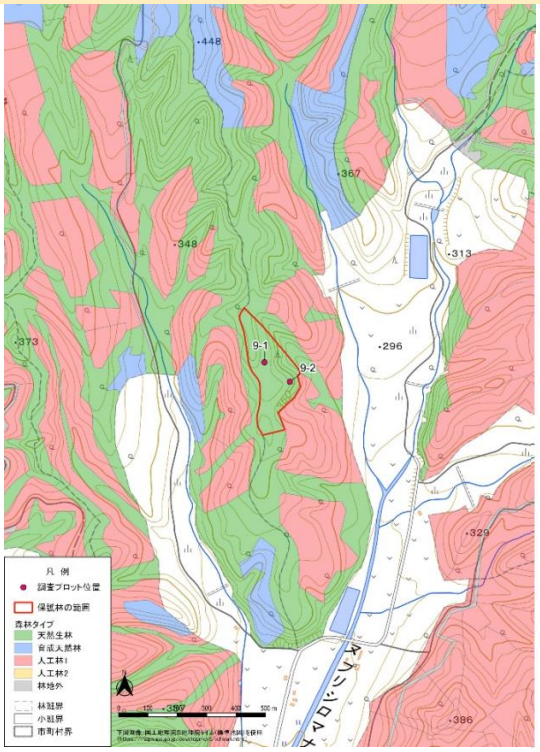


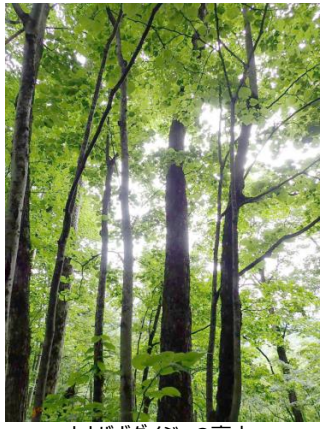
ID	優占種	発達段階		高木層		亜高木層		施業形跡	被害情報等
				高さ(m)	植被率	高さ(m)	植被率		
12777	ミズナラ	天然更新	老齢	20 ～ 37	30%	10 ～ 20	10%	なし	なし

確認された影響[特になし]
・一部で風倒木が確認されたが、林況に大きな変化はなく健全な状態であった。
・アカエゾマツの大径木及び天然更新も確認され、その他トドマツや広葉樹の天然更新は良好であり、概ね健全な林分である。
・引き続き、巡視等のモニタリングにより経過を観察していく。

9 朝日オオバボダイジュ遺伝資源希少個体群保護林

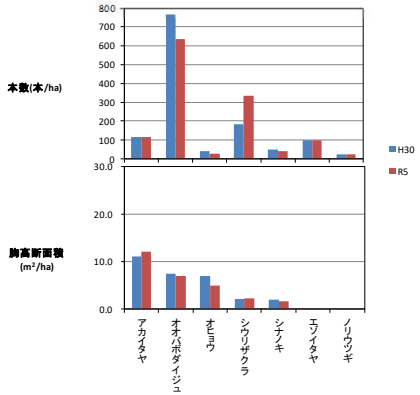
実施した現地調査 | 保護林森林詳細調査(2箇所)




オオバボダイジュの高木

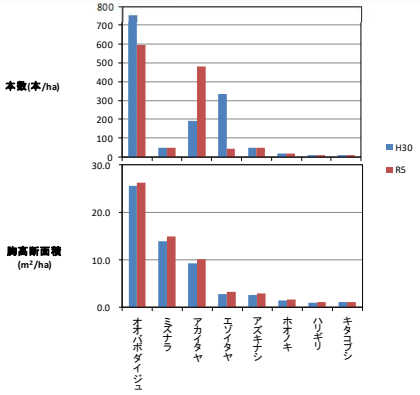
プロット9-1

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。



プロット9-2

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

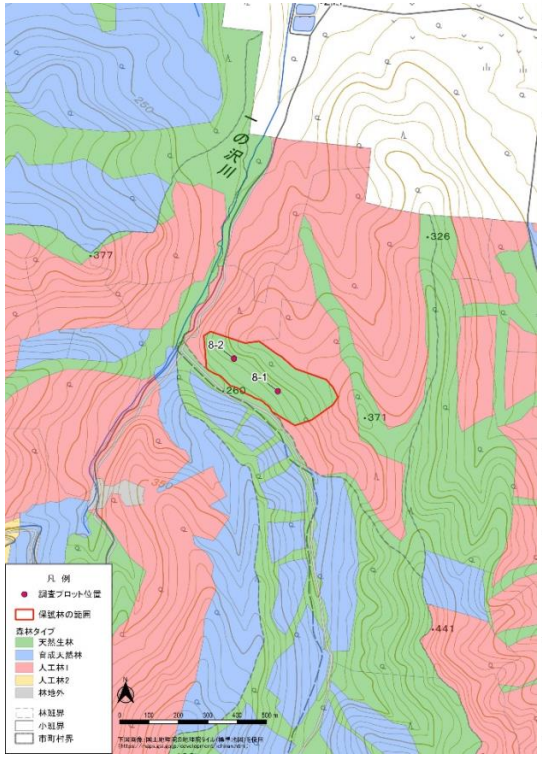


保護林名		朝日オオバボダイジュ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		オオバボダイジュ			
プロットNo.		9-1		9-2	
旧No.		30904-1		30904-2	
調査日		2018/7/18	2023/7/19	2018/7/18	2023/7/19
プロット情報	標高	389m		369m	
	斜面方位、傾斜(平均)	E 32°		E 34°	
	局所地形	山腹平衡斜面		山腹平衡斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ、アカイタヤ	オオバボダイジュ、アカイタヤ
	【高】樹高	15～22m	15～24m	15～25m	17～24m
	【高】植被率	70%	70%	80%	80%
	【高】DBH	20～105cm	22～109cm	20～84cm	24～83cm
	【亜】主要構成樹種	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ
	【亜】樹高	5～11m	7～13m	6～14m	8～16m
	【亜】植被率	20%	30%	40%	40%
	【亜】DBH	8～20cm	9～21cm	10～20cm	7～20cm
	【低】主要構成樹種	オオバボダイジュ、アカイタヤ	アカイタヤ、シウリザクラ	オオバボダイジュ、シウリザクラ	オオバボダイジュ、シウリザクラ
	【低】樹高	1～5m	2～5m	1～5m	2～7m
	【低】植被率	20%	20%	30%	10%
	【低】DBH	5cm未満	2～5cm	5cm未満	2～6cm
	最大樹高樹種 樹高	オオバボダイジュ 22.5m	オオバボダイジュ 24.1m	アカイタヤ 24.4m	アカイタヤ 25.3m
	最大直径樹種 直径	ミズナラ 105.8cm	ミズナラ 109.4cm	アカイタヤ 84.3cm	アカイタヤ 83.1cm
	保護対象種の本数割合	50～80%	50～80%	50～80%	50～80%
	気象害	-	-	-	-
	病虫害	-	-	-	-
	気象害等のコメント	-	-	-	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	食痕	食痕	食痕	-
	その他痕跡	-	-	-	-
	痕跡の程度	小	軽微	小	-
	痕跡のコメント	シカの下層植生食痕あり	シカのオヒョウ剥皮あり	シカの下層植生食痕あり	-
林床植生	主要構成種（主体は80%以上）	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体
	優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
	植被率	80%	90%	70%	80%
	植生高	0.5～1.5m	0.1～1.2m	0.5～1.5m	0.1～1.4m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種：普通 保護対象種以外：多い	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種：普通 保護対象種以外：多い
保護林の状況		オオバボダイジュは稚幹も多く、低木層から高木層まで各階層に分布する。	オオバボダイジュは各階層に見られ、天然更新も盛んである。シウリザクラの稚樹が多く見られる。	オオバボダイジュは稚幹も多く、低木層から高木層まで各階層に分布する。	オオバボダイジュは各階層に見られ、天然更新も盛んである。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア：野生鳥獣 イ：病虫害 ウ：外来種 エ：温暖化 オ：自然攪乱 カ：その他 －：特になし		確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

確認された影響[特になし]
・林況に大きな変化はなく、健全な状態であった。
・オオバボダイジュの天然更新も良好であり、概ね健全なである。
・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

8 風連トドマツ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(2箇所)



トドマツの稚樹

保護林名		風連トドマツ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		トドマツ			
プロットNo.		8-1		8-2	
旧No.		30903-1		30903-2	
調査日		2018/7/27	2023/7/20	2018/7/27	2023/7/20
プロット情報	標高	303m		305m	
	斜面方位、傾斜(平均)	SW 8°		SW 11°	
	局所地形	山腹平衡斜面		山腹平衡斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種	トドマツ、アカエゾマツ	アカエゾマツ、トドマツ	トドマツ、アカエゾマツ	トドマツ、アカエゾマツ
	【高】樹高	20m以上	17～24m	20m以上	18～26m
	【高】植被率	-	80%	-	80%
	【高】DBH	30cm以上	16～65cm	30cm以上	16～70cm
	【亜】主要構成樹種	トドマツ、ミズナラ	トドマツ、ミズナラ	エゾイタヤ、トドマツ	トドマツ
	【亜】樹高	10m以上	7～15m	5～10m	8～16m
	【亜】植被率	-	40%	-	40%
	【亜】DBH	10～20cm	8～17cm	10～20cm	7～15cm
	【低】主要構成樹種	トドマツ、ノリウツギ	トドマツ、オオカメノキ	トドマツ	トドマツ、ハウチワカエデ
	【低】樹高	1～5m	2～6m	1～5m	2～6m
	【低】植被率	-	30%	-	30%
	【低】DBH	5～10cm	2～6cm	5cm未満	2～6cm
	最大樹高樹種 樹高	- -	アカエゾマツ 24.0m	- -	アカエゾマツ 26.0m
	最大直径樹種 直径	- -	ミズナラ 70.0cm	- -	ミズナラ 70.0cm
	保護対象種の本数割合	50～80%	50～80%	50～80%	50～80%
	気象害 病虫害	- -	風害(軽微) -	風害(軽微) -	風害(軽微) -
	気象害等のコメント	-	-	-	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡 その他痕跡 痕跡の程度	- - -	糞、角研ぎ - 軽微	食痕、死骸、角研ぎ - 中	シカ道、糞、角研ぎ - 軽微
	痕跡のコメント	-	-	新しい角研ぎ痕あり	-
林床植生	主要構成種 (主体は80%以上)	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	各種混在
	優占する植物種	チシマザサ	クマイザサ	チシマザサ	クマイザサ、エゾユズリハ
	植被率 植生高	密生 0.5～1.5m	90% 0.1～1.6m	密生 0.5～1.5m	80% 0.1～1.1m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種：多い 保護対象種以外：少ない	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種：多い 保護対象種以外：普通
保護林の状況		下層植生にトドマツ天然更新が多い。尾根近くは広葉樹が多くなる。	アカエゾマツの大径木が見られる。トドマツは各階層に見られ、天然更新は順調に行われている。	トドマツの天然更新は多い。	アカエゾマツの大径木が見られる。トドマツは各階層に見られ、天然更新は順調に行われている。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然撹乱 カ:その他 ー:特になし		確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

プロット8-1

項目	H23	R5	比較結果等
樹北方向			大きな変化はない。
樹東方向			大きな変化はない。
樹南方向			大きな変化はない。
樹西方向			大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

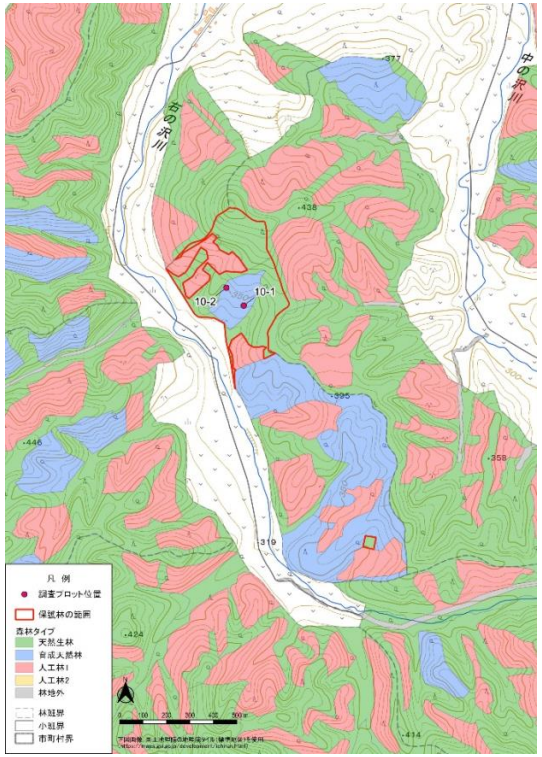
プロット8-2

項目	H23	R5	比較結果等
樹北方向			大きな変化はない。
樹東方向			大きな変化はない。
樹南方向			大きな変化はない。
樹西方向			大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

確認された影響[特になし]
・風倒木によるギャップが確認されたが、林況に大きな変化はなく健全な状態であった。
・トドマツの更新木は多数確認されたことから天然更新は順調に行われており、概ね健全な林分である。
・引き続き、巡視等のモニタリングにより経過を観察していく。

10 朝日ウダイカンバ等遺伝資源希少個体群保護林

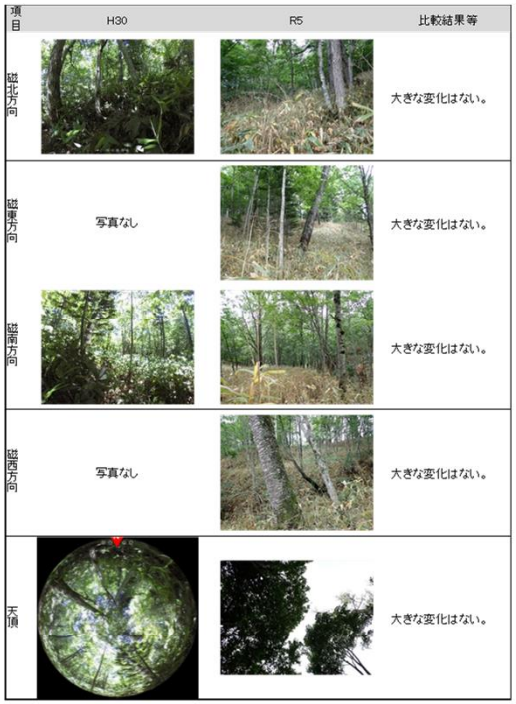
実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(2箇所)



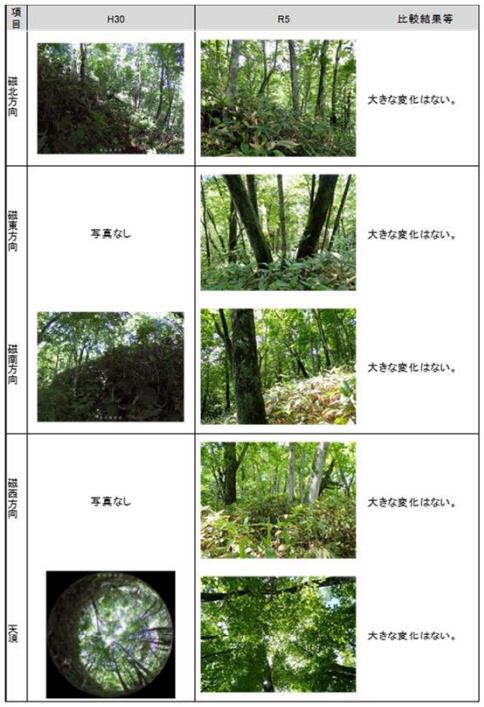
ミズナラの稚樹

保護林名		朝日ウダイカンバ等遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		ウダイカンバ、ミズナラ			
プロットNo.		10-1		10-2	
旧No.		30905-1		30905-2	
調査日		2018/7/29	2023/7/17	2018/7/29	2023/7/17
プロット情報	標高	366m		368m	
	斜面方位、傾斜(平均)	W 17°		SW 24°	
	局所地形	山腹平衡斜面		山腹平衡斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種	トドマツ、ミズナラ	トドマツ、ミズナラ	トドマツ、ウダイカンバ	ウダイカンバ、ミズナラ
	【高】樹高	20m以上	13～20m	20m以上	17～26m
	【高】植被率	–	60%	–	50%
	【高】DBH	30cm以上	17～32cm	30cm以上	20～50cm
	【亜】主要構成樹種	ホオノキ、トドマツ	トドマツ	ウダイカンバ、トドマツ	ミズナラ
	【亜】樹高	5～10m	7～13m	10m以上	8～16m
	【亜】植被率	–	40%	–	60%
	【亜】DBH	10cm未満	6～15cm	10～20cm	7～20cm
	【低】主要構成樹種	トドマツ、ミズナラ	ミズナラ、トドマツ	トドマツ、シナノキ	アカイタヤ
	【低】樹高	1～5m	2～7m	1～5m	2～7m
	【低】植被率	–	20%	–	20%
	【低】DBH	5cm未満	2～5cm	5cm未満	2～6cm
	最大樹高樹種	–	ミズナラ	–	ウダイカンバ
	樹高	–	20.0m	–	26.0m
	最大直径樹種	–	ミズナラ	–	ウダイカンバ
	直径	–	32.0cm	–	50.0cm
	保護対象種の本数割合	20～50%	20%以下	20～50%	20%以下
	気象害	–	–	–	風害(軽微)
	病虫害	–	–	–	–
	気象害等のコメント	–	–	–	–
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	シカ道、糞、角研ぎ	–	シカ道、足跡	–
	その他痕跡	–	–	クマゲラ(食痕)	–
	痕跡の程度	小	–	軽微	–
	痕跡のコメント	トドマツに角研ぎ痕あり	–	–	–
林床植生	主要構成種(主体は80%以上)	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体
	優占する植物種	チシマザサ	クマイザサ	チシマザサ	クマイザサ
	植被率	密生	100%	密生	100%
	植生高	0.5～1.5m	0.1～1.5m	0.5～1.5m	0.1～1.6m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種：少ない 保護対象種以外：少ない	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種：なし 保護対象種以外：少ない
保護林の状況		ミズナラは天然更新が見られるが、ウダイカンバのものはない。	ミズナラは散見され天然更新も見られるが、ウダイカンバは枯死木が多く天然更新も見られない。	ウダイカンバは枯れているか、衰弱している。	ミズナラ、ウダイカンバの天然更新は見られない。ウダイカンバは枯死木が散見される。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア：野生鳥獣　イ：病虫害　ウ：外来種 エ：温暖化　オ：自然攪乱　カ：その他 －：特になし		確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

プロット10-1



プロット10-2



確認された影響[特になし]

・ウダイカンバとミズナラの希少個体群の生育地として保護されている森林である。

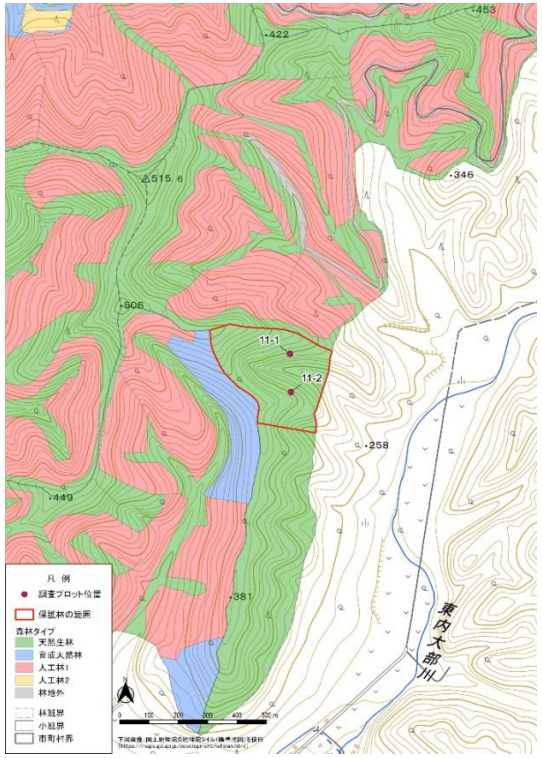
・ミズナラの生育は健全であったが、ウダイカンバは衰弱木が多く枯死木も散見され、天然更新はみられなかった。

・自然遷移の一環と考えられるが、ウダイカンバの生育状況には留意が必要である。

・更新状況を注視しつつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

11 上士別オオバボダイジュ遺伝資源希少個体群保護林

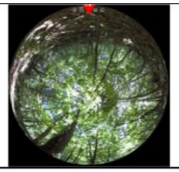
実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(2箇所)



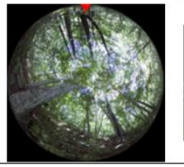
保護林名		上士別オオバボダイジュ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		オオバボダイジュ			
プロットNo.		11-1		11-2	
旧No.		30906-1		30906-2	
調査日		2018/7/29	2023/7/17	2018/7/29	2023/7/17
プロット情報	標高	355m		365m	
	斜面方位、傾斜(平均)	E 32°		E 32°	
	局所地形	山腹平衡斜面		山腹平衡斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種	オオバボダイジュ、ミズナラ	オオバボダイジュ、ミズナラ	オオバボダイジュ、エゾイタヤ	オオバボダイジュ、アカイタヤ
	【高】樹高	20m以上	17～26m	20m以上	15～22m
	【高】植被率	-	80%	-	50%
	【高】DBH	30cm以上	17～55cm	30cm以上	16～42cm
	【亜】主要構成樹種	ハウチワカエデ、アカイタヤ	アカイタヤ、ミズナラ	エゾイタヤ、オオバボダイジュ	アカイタヤ、ホオノキ
	【亜】樹高	10m以上	8～17m	10m以上	7～15m
	【亜】植被率	-	60%	-	50%
	【亜】DBH	10～20cm	7～22cm	10～20cm	6～13cm
	【低】主要構成樹種	ハウチワカエデ、シウリザクラ	ハウチワカエデ、シウリザクラ	ハクウンボク、オオカメノキ	サワシバ、ツノハシバミ
	【低】樹高	1～5m	2～8m	1～5m	2～7m
	【低】植被率	-	50%	-	40%
	【低】DBH	5cm未満	2～8cm	5cm未満	2～6cm
	最大樹高樹種	-	ミズナラ	-	オオバボダイジュ
	樹高	-	26.0m	-	22.0m
	最大直径樹種	-	ミズナラ	-	オオバボダイジュ
	直径	-	55.0cm	-	42.0cm
	保護対象種の本数割合	20～50%	20～50%	50～80%	20～50%
	気象害	-	風害(軽微)	-	風害(小)
	病虫害	-	-	-	-
	気象害等のコメント	-	-	-	風倒によるギャップあり
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	シカ道、足跡、糞	食痕	足跡、糞	角研ぎ
	その他痕跡	-	-	-	-
	痕跡の程度	軽微	軽微	-	軽微
	痕跡のコメント	-	-	-	-
林床植生	主要構成種（主体は80%以上）	ササ類主体	低木類主体	ササ類主体	低木類主体
	優占する植物種	チシマザサ	エゾユズリハ	チシマザサ	エゾユズリハ
	植被率	密生	80%	密生	100%
	植生高	0.5～1.5m	0.1～1.2m	0.5～1.5m	0.1～1.4m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種：なし 保護対象種以外：多い	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種：少ない 保護対象種以外：普通
保護林の状況		オオバボダイジュは低木、萌芽が見られる。	オオバボダイジュの天然更新は見られないが、その他の樹種のものは多く見られる。	オオバボダイジュは低木の株立ちが多い。	オオバボダイジュは高木層、低木層で見られ、天然更新も確認された。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア：野生鳥獣 イ：病虫害 ウ：外来種 エ：温暖化 オ：自然攪乱 カ：その他 ー：特になし		確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

オオバボダイジュの稚樹

プロット11-1

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

プロット11-2

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			低木層の生長がみられる。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

確認された影響[特になし]

・林況に大きな変化はなく、高木層のオオバボダイジュは健全な状態であった。

・プロット11-1ではオオバボダイジュの更新木はみられなかったが、その他の広葉樹の実生や稚樹が多くみられ、全体として天然更新の状況は良好であった。

・プロット11-2ではオオバボダイジュの稚樹がみられ、順調に天然更新が行われているといえる。

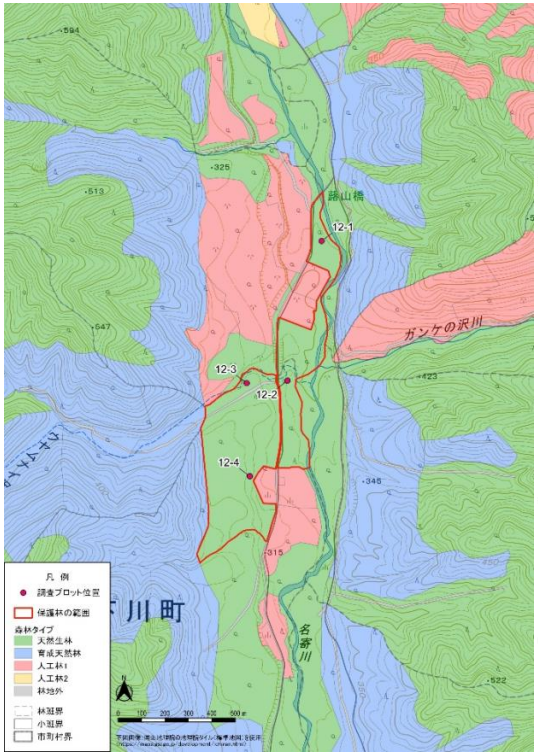
・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

3-3.希少個体群保護林 (2/6)

No	保護林ID	保護林名	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・対応(案)
12	30907	一ノ橋キハダ等遺伝資源希少個体群保護林 (28.37ha)	キハダ、ハルニレ	H30	・森林詳細調査 （4箇所）	・大きな変化はなかったが、保護対象種の天然更新が少ない、あるいはみられなかった。 ・一部でシカの食害が確認された。	5年	**確認された影響[野生鳥獣]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
13	31501	佐呂間オオバボダイジュ等遺伝資源希少個体群保護林 (11.33ha)	オオバボダイジュ、カツラ、シウリザクラ	H30	・森林概況調査 （2箇所）	・一部でトドマツが優占しつつあるが、保護対象種の実生や稚樹、萌芽もみられ、天然更新は順調であった。	5年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
14	31502	佐呂間トドマツ遺伝資源希少個体群保護林 (39.79ha)	トドマツ	H30	・森林概況調査 （2箇所）	・林況に大きな変化はなく、トドマツの大径木がみられ、天然更新は少なかった。 ・エゾシカの痕跡がやや多くみられるが、トドマツへの影響は軽微であり、その他の樹種の天然更新は順調であった。	5年	**確認された影響[野生鳥獣]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
15	31503	常元チョウセンカラマツ遺伝資源希少個体群保護林 (2.59ha)	チョウセンカラマツ	H30	・森林概況調査 （2箇所）	・林況に大きな変化はなかった。 ・チョウセンカラマツの更新については留意が必要である。	5年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
16	31504	旭ケヤマハンノキ遺伝資源希少個体群保護林 (4.84ha)	ケヤマハンノキ	H30	・森林概況調査 （2箇所）	・林床はササが密生し天然更新は少ないが、ケヤマハンノキの萌芽はみられた。 ・亜高木層以下はアカエゾマツが優占しており、今後は針葉樹林へ遷移していく可能性がある。	5年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
17	31505	温根湯イタヤカエデ等遺伝資源希少個体群保護林 (12.35ha)	イタヤカエデ、ハウチワカエデ、アズキナシ	H30	・森林概況調査 （2箇所）	・林況に大きな変化はなく、健全な状態であった。 ・保護対象種およびその他の樹種の実生や稚樹もみられた。	5年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

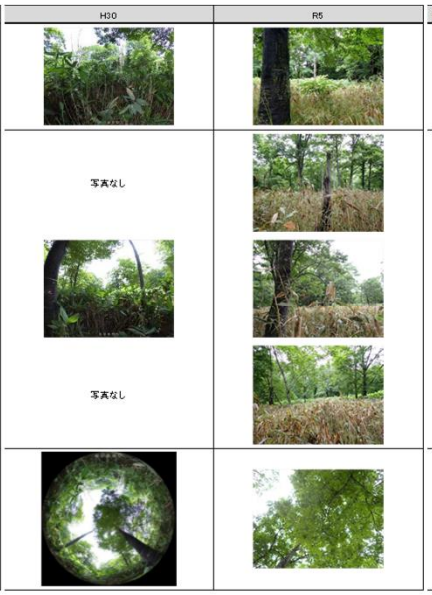
12 一ノ橋キハダ等遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 | 保護林森林詳細調査(4箇所)

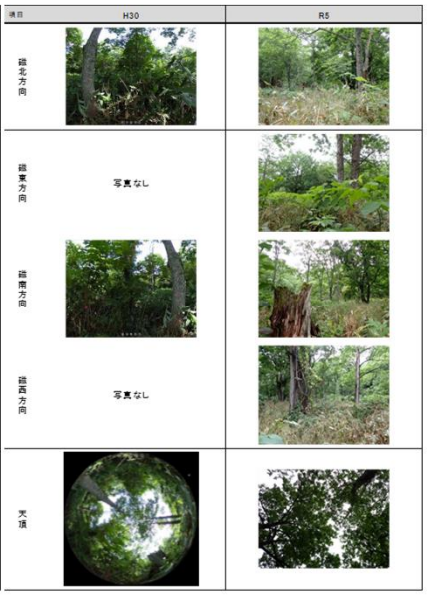


プロット12-1

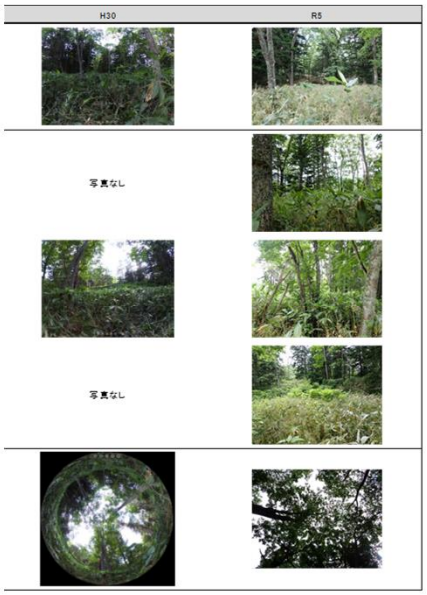
プロット12-2

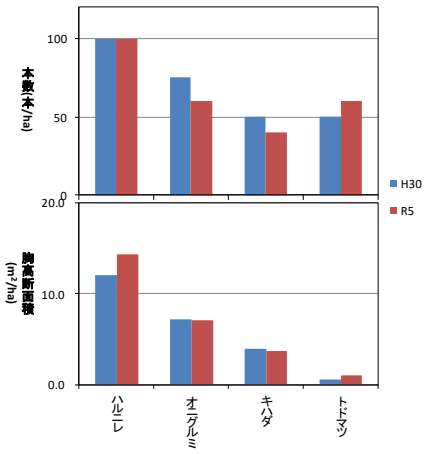


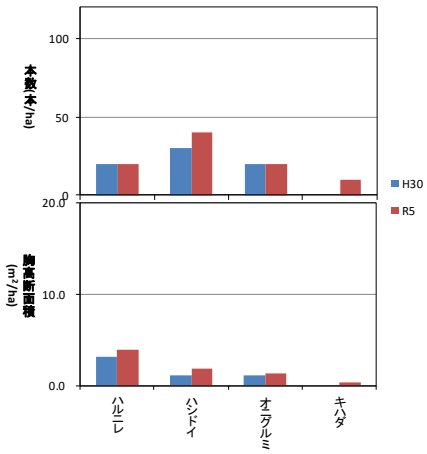
プロット12-3

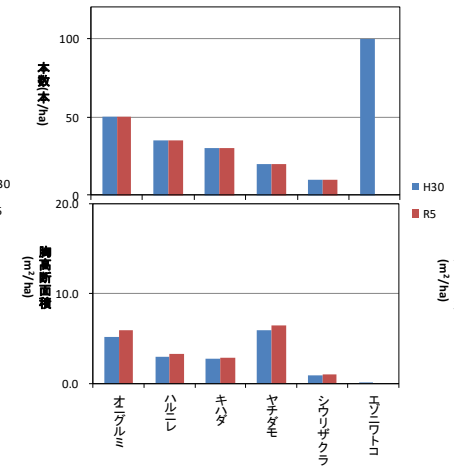


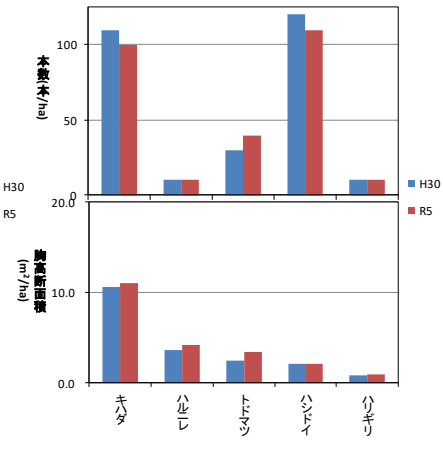
プロット12-4











12 一ノ橋キハダ等遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 | 保護林森林詳細調査(4箇所)

保護林名		一ノ橋キハダ等遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		キハダ、ハルニレ			
プロットNo.		12-1		12-2	
旧No.		30907-1		30907-2	
調査日		2018/7/27	2023/7/18	2018/7/27	2023/7/18
プロット情報	標高	322m		326m	
	斜面方位、傾斜(平均)	E 2°		1°	
	局所地形	平坦地		平坦地	
林分状況	【高】主要構成樹種	ハルニレ、キハダ	ハルニレ、キハダ	ハルニレ	ハルニレ
	【高】樹高	15～26m	17～27m	15～21m	15～23m
	【高】植被率	40%	40%	30%	30%
	【高】DBH	26～66cm	27～69cm	21～46cm	21～51cm
	【亜】主要構成樹種	オニグルミ、トドマツ	オニグルミ、トドマツ	ハシドイ、オニグルミ	ハシドイ、オニグルミ
	【亜】樹高	7～13m	8～16m	7～13m	7～14m
	【亜】植被率	20%	20%	20%	20%
	【亜】DBH	10～20cm	20～24cm	20～26cm	21～29cm
	【低】主要構成樹種	トドマツ	トドマツ	なし	なし
	【低】樹高	4m	6m	–	–
	【低】植被率	1%	1%	0%	0%
	【低】DBH	7cm	9cm	–	–
	最大樹高樹種 樹高	ハルニレ 26.1m	ハルニレ 27.0m	ハルニレ 21.1m	ハルニレ 23.0m
	最大直径樹種 直径	ハルニレ 66.3cm	ハルニレ 69.2cm	ハルニレ 46.6cm	ハルニレ 52.1cm
	保護対象種の本数割合	20～50%	20～50%	50～80%	20～50%
	気象害	–	–	–	–
	病虫害	–	–	–	–
	気象害等のコメント	–	–	–	–
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	–	食痕	–	食痕
	その他痕跡	–	–	–	–
	痕跡の程度	–	軽微	–	中
	痕跡のコメント	–	シカのトドマツ剥皮あり	–	シカの剥皮あり
林床植生	主要構成種 （主体は80%以上）	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体
	優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
	植被率	100%	100%	100%	100%
	植生高	0.5～1.5m	0.1～1.2m	0.5～1.5m	0.1～1.2m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種：なし 保護対象種以外：少ない	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種：なし 保護対象種以外：なし
保護林の状況		–	キハダ、ハルニレの天然更新は見られないが、ヤチダモの実生が見られる。	–	シカの剥皮が原因と思われる枯損木が散見されるが、防鹿ネットが巻いてある立木の生育は健全である。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア：野生鳥獣 イ：病虫害 ウ：外来種 エ：温暖化 オ：自然攪乱 カ：その他 －：特になし		確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

保護林名		一ノ橋キハダ等遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		キハダ、ハルニレ			
プロットNo.		12-3		12-4	
旧No.		30907-3		30907-4	
調査日		2018/7/27	2023/7/18	2018/7/27	2023/7/18
プロット情報	標高	323m		340m	
	斜面方位、傾斜(平均)	NW 3°		1°	
	局所地形	平坦地		平坦地	
林分状況	【高】主要構成樹種	ヤチダモ、ハルニレ	ヤチダモ、ハルニレ	キハダ	キハダ
	【高】樹高	17～27m	19～27m	20～25m	15～22m
	【高】植被率	–	30%	–	50%
	【高】DBH	30～69cm	17～55cm	19～68cm	16～42cm
	【亜】主要構成樹種	キハダ、オニグルミ	キハダ、オニグルミ	トドマツ	トドマツ
	【亜】樹高	10～16m	11～20m	8～15m	7～15m
	【亜】植被率	–	40%	–	20%
	【亜】DBH	14～40cm	14～40cm	10～20cm	6～13cm
	【低】主要構成樹種	エゾニワトコ	なし	ハシドイ	ハシドイ
	【低】樹高	2m	–	3～8m	5～9m
	【低】植被率	–	0%	–	1%
	【低】DBH	2cm	–	5～10cm	6～14cm
	最大樹高樹種 樹高	ヤチダモ 26.8m	ヤチダモ 27.0m	キハダ 24.8m	キハダ 26.1m
	最大直径樹種 直径	ヤチダモ 69.1cm	ヤチダモ 69.2cm	ハルニレ 68.0cm	ハルニレ 72.8cm
	保護対象種の本数割合	20～50%	20～50%	50～80%	20～50%
	気象害	–	–	–	–
	病虫害	–	–	–	–
	気象害等のコメント	–	–	–	–
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	–	食痕	–	–
	その他痕跡	–	–	–	–
	痕跡の程度	–	軽微	–	–
	痕跡のコメント	–	シカ剥皮あり	–	–
林床植生	主要構成種 （主体は80%以上）	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体
	優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
	植被率	100%	100%	100%	100%
	植生高	0.5～1.5m	0.1～1.3m	0.5～1.5m	0.1～1.3m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種：なし 保護対象種以外：なし	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種：なし 保護対象種以外：なし
保護林の状況		–	シカの剥皮が原因と思われる枯損木が散見されるが、生木の生育は健全である。	–	シカの剥皮が原因と思われる枯損木が散見されるが、生木の生育は健全である。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア：野生鳥獣 イ：病虫害 ウ：外来種 エ：温暖化 オ：自然攪乱 カ：その他 －：特になし		確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

キハダの高木

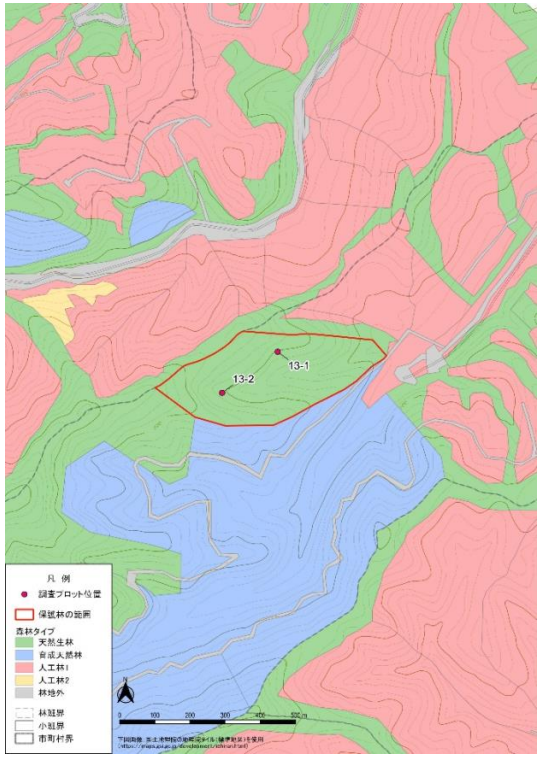
亜高木層の様子

キハダ枯損木

確認された影響[野生鳥獣]
・キハダとハルニレの希少個体群が保護されている森林である。
・大きな変化はなかったが、保護対象種の天然更新が少ない、あるいはみられなかった。
・一部でシカの食害が確認された。
・巡視等によりシカ害等に留意しつつ、経過を観察していく。

13 佐呂間オオバボダイジュ等遺伝資源希少個体群保護林

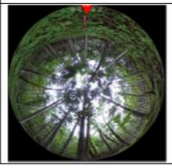
実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(2箇所)



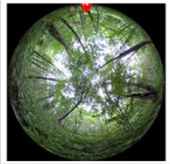
カツラの大径木

保護林名		佐呂間オオバボダイジュ等遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		オオバボダイジュ、カツラ、シウリザクラ			
プロットNo.		13-1		13-2	
旧No.		31501-1		31501-2	
調査日		2018/8/25	2023/9/27	2018/8/25	2023/9/27
プロット情報	標高	150m		171m	
	斜面方位、傾斜(平均)	SW 29°		SW 2°	
	局所地形	山腹平衡斜面		平坦地	
林分状況	【高】主要構成樹種	トドマツ、ハリギリ	トドマツ、エゾヤマザクラ	カツラ、シナノキ	カツラ、シナノキ
	【高】樹高	10～20m	20～33m	20m以上	20～35m
	【高】植被率	-	70%	-	30%
	【高】DBH	20～30cm	35～56cm	30cm以上	42～161cm
	【亜】主要構成樹種	トドマツ、ホオノキ	トドマツ、ホオノキ	オヒョウ、トドマツ	サワシバ、エゾマツ
	【亜】樹高	10m以上	12～18m	5～10m	8～15m
	【亜】植被率	-	40%	-	40%
	【亜】DBH	10～20cm	18～34cm	10～20cm	24～35cm
	【低】主要構成樹種	ハウチワカエデ、シナノキ	ハウチワカエデ、キタコブシ	エゾマツ、ヤマグワ	キタコブシ、シウリザクラ
	【低】樹高	1～5m	2～8m	5m以上	4～6m
	【低】植被率	-	10%	-	10%
	【低】DBH	5cm未満	2～6cm	5～10cm	4～8cm
	最大樹高樹種 樹高	トドマツ 20m	トドマツ 33.4m	カツラ 23m	カツラ 24.5m
	最大直径樹種 直径	トドマツ 50cm	トドマツ 55.9cm	カツラ 150cm	カツラ 161.1cm
	保護対象種の本数割合	ほとんど見られない	20%以下	20～50%	20%以下
	気象害	-	風害(軽微)	風害(軽微)、落雷(軽微)	風害(軽微)、落雷(軽微)
	病虫害	-	-	-	-
	気象害等のコメント	-	風倒木わずかにあり	カツラに落雷痕あり	落雷痕は古い
	エゾシカ痕跡	シカ道、足跡、角研ぎ、糞	シカ道、足跡、角研ぎ	シカ道、足跡、食痕	糞、足跡、食痕
	その他痕跡	-	クマゲラ(食痕)	-	-
	痕跡の程度	小	軽微	軽微	小
	痕跡のコメント	プロット外に古い角研ぎ痕あり(イチイ、トドマツなど)	トドマツにクマゲラ食痕あり	シカのヨブスマソウ、ムカゴイラクサの食痕わずかにあり	シカの頂芽、下層植生の食痕少数あり
林床植生	主要構成種 (主体は80%以上)	草本類主体	草本類主体	草本類主体	草本類主体
	優占する植物種	ジュウモンジシダ	オシダ、ミミコウモリ	オシダ、ジュウモンジシダ	オシダ、ジュウモンジシダ
	植被率	-	40%	-	40%
	植生高	-	0.1～1.0m	-	0.1～1.2m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が見られる	保護対象種：少ない 保護対象種以外：多い	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種：少ない 保護対象種以外：普通
保護林の状況		トドマツ主体の林となっており、保護対象種は見られない。	遷移が進み、トドマツが優占しつつある。林床では天然更新が盛んに行われており、特にトドマツのものが多い。	プロット周辺の保護対象種はカツラのみで、天然更新は見られない。	カツラ、オヒョウの大径木が見られる。実生、稚樹、幼木は少ないが、林床が空いている箇所には実生が少数見られる。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア：野生鳥獣 イ：病虫害 ウ：外来種 エ：温暖化 オ：自然攪乱 カ：その他 －：特になし		確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

プロット13-1

項目	H30	R5	比較結果等
北方向			大きな変化はない。
東方向	写真なし		大きな変化はない。
南方向			大きな変化はない。
西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

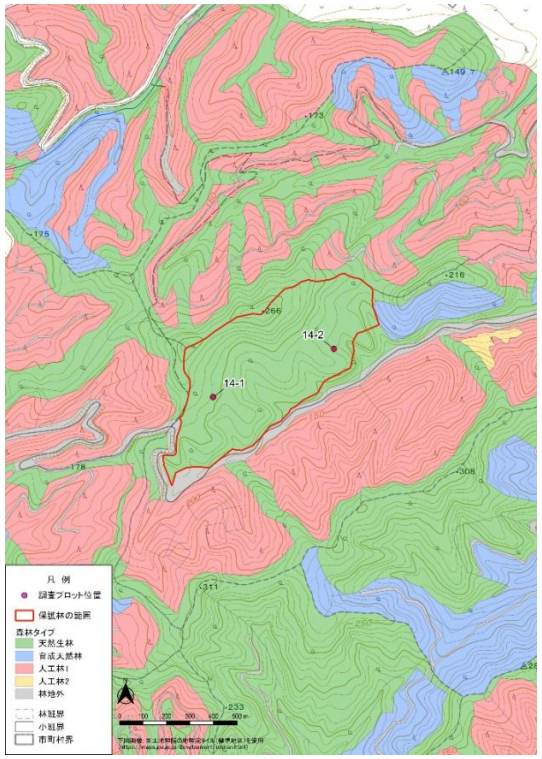
プロット13-2

項目	H30	R5	比較結果等
北方向			一部風倒木がみられるが、全体として大きな変化はない。
東方向	写真なし		大きな変化はない。
南方向			一部風倒木がみられるが、全体として大きな変化はない。
西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

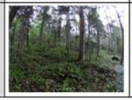
確認された影響[特になし]
・オオバボダイジュ、カツラ、シウリザクラの希少個体群の生育地として保護されている森林である。
・一部でトドマツが優占しつつあり、更新木もトドマツが多かったが、保護対象種の実生や稚樹、萌芽もみられ、天然更新は順調に行われていた。
・林況は概ね良好な林分である。
・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

14 佐呂間トドマツ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(2箇所)



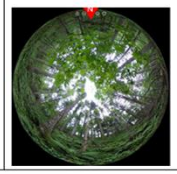
トドマツの高木

保護林名		佐呂間トドマツ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		トドマツ			
プロットNo.		14-1		14-2	
旧No.		31502-1		31502-2	
調査日		2018/8/25	2023/9/27	2018/8/25	2023/9/27
プロット情報	標高	207m		165m	
	斜面方位、傾斜(平均)	SE 15°		NE 23°	
	局所地形	山腹平衡斜面		山腹凹斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種	トドマツ、ハリギリ	トドマツ、シナノキ	トドマツ、シナノキ	トドマツ、シナノキ
	【高】樹高	10～20m	15～26m	10～20m	17～31m
	【高】植被率	–	60%	–	50%
	【高】DBH	30cm以上	40～69cm	30cm以上	38～66cm
	【亜】主要構成樹種	エゾイタヤ、トドマツ	トドマツ、ホオノキ	ホオノキ、シナノキ	ホオノキ、シウリザクラ
	【亜】樹高	5～10m	8～15m	10m以上	10～16m
	【亜】植被率	–	40%	–	30%
	【亜】DBH	10～20cm	15～35cm	10～20cm	16～24cm
	【低】主要構成樹種	トドマツ、ハウチワカエデ	トドマツ、ハウチワカエデ	ハウチワカエデ、シウリザクラ	ハウチワカエデ、シウリザクラ
	【低】樹高	1～5m	3～8m	1～5m	4～10m
	【低】植被率	–	10%	–	30%
	【低】DBH	5cm未満	3～8cm	5cm未満	3～8cm
	最大樹高樹種	–	トドマツ	–	トドマツ
	樹高	–	26.2m	–	31.1m
	最大直径樹種	–	トドマツ	–	トドマツ
	直径	–	68.9cm	–	65.5cm
	保護対象種の本数割合	50～80%	50～80%	50～80%	50～80%
	気象害	風害(軽微)	風害(軽微)	風害(軽微)	風害(軽微)
	病虫害	–	–	–	–
	気象害等のコメント	–	風倒木は古い	–	風倒木は古い
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	シカ道、糞、角研ぎ	シカ道、角研ぎ、食痕	シカ道、糞、角研ぎ	シカ道、食痕
	その他痕跡	–	キツツキ(食痕)	–	クマゲラ(食痕)
	痕跡の程度	中	中	中	軽微
	痕跡のコメント	ハウチワカエデ、トドマツに古い角研ぎ痕あり	トドマツに角研ぎ痕、樹皮食痕等あり	シウリザクラ、ハウチワカエデに古い角研ぎ痕あり	シカの頂芽、下層植生の食痕少数あり
林床植生	主要構成種(主体は80%以上)	ササ類主体	ササ類主体	草本類主体	草本類主体
	優占する植物種	クマイザサ、ホソバナライシダ	クマイザサ、ホソバナライシダ	フッキソウ、オシダ	フッキソウ、オシダ
	植被率	疎生又は散在	70%	–	80%
	植生高	0.5m未満	0.1～1.5m	–	0.2～1.2m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が見られる	保護対象種:少ない 保護対象種以外:普通	保護対象種の実生の天然更新が見られる	保護対象種:少ない 保護対象種以外:普通
保護林の状況		トドマツの天然更新は少ないが、キタコブシ、シナノキの更新は盛ん。	トドマツの大径木が多く見られる。シカの影響が見られるが、天然更新は順調に行われている。	林床はキタコブシ、シウリザクラ等盛んに更新している。	トドマツの大径木が見られる。シカの影響は軽微で、天然更新も順調に行われている。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然撹乱 カ:その他 －:特になし		確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

プロット14-1

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

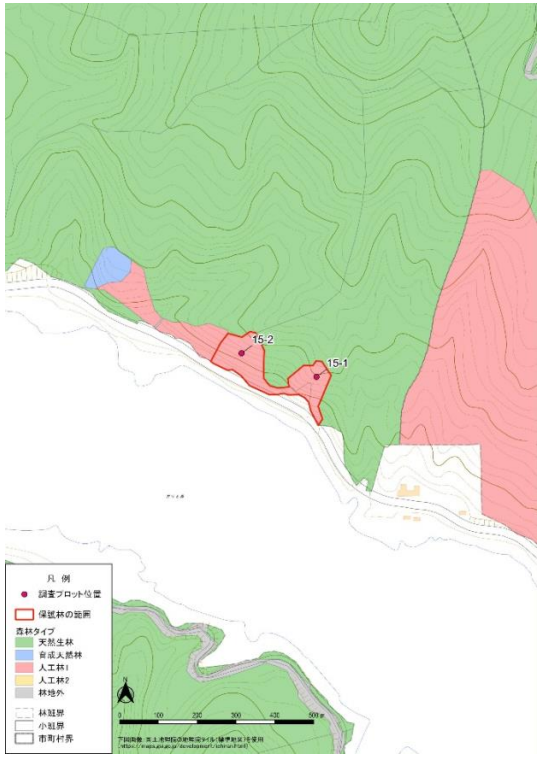
プロット14-2

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

確認された影響[野生鳥獣]
・林況に大きな変化は無く、トドマツの大径木がみられたが、トドマツの天然更新は少なかった。
・エゾシカの痕跡がやや多くみられるが、トドマツへの影響は軽微であった。
・エゾシカの影響には留意が必要であるが、その他の樹種の旺盛な天然更新がみられる。
・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

15 常元チョウセンカラマツ遺伝資源希少個体群保護林

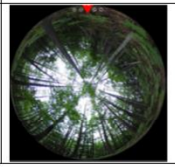
実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(2箇所)



チョウセンカラマツの高木

保護林名		常元チョウセンカラマツ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		チョウセンカラマツ			
プロットNo.		15-1		29-2	
旧No.		31503-1		31503-2	
調査日		2018/8/24	2023/7/26	2018/8/11	2023/7/26
プロット情報	標高	555m		527m	
	斜面方位、傾斜(平均)	SW 27°		SW 36°	
	局所地形	山腹平衡斜面		山腹平衡斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種	チョウセンカラマツ	チョウセンカラマツ	チョウセンカラマツ	チョウセンカラマツ
	【高】樹高	20m以上	22～30m	20m以上	25～29m
	【高】植被率	-	70%	-	70%
	【高】DBH	20～30cm	24～41cm	20～30cm	24～45cm
	【亜】主要構成樹種	エゾイタヤ、ハリギリ	エゾイタヤ、ハリギリ	トドマツ、エゾイタヤ	エゾイタヤ、ハリギリ
	【亜】樹高	10m以上	13～18m	10m以上	12～18m
	【亜】植被率	-	80%	-	80%
	【亜】DBH	10～20cm	11～21cm	10～20cm	11～30cm
	【低】主要構成樹種	トドマツ、アカエゾマツ	トドマツ、エゾイタヤ	エゾイタヤ	トドマツ
	【低】樹高	1～5m	3～7m	1～5m	2～9m
	【低】植被率	-	3%	-	20%
	【低】DBH	5cm未満	3～10cm	5cm未満	2～13cm
	最大樹高樹種	-	チョウセンカラマツ	-	チョウセンカラマツ
	樹高	-	30.1m	-	29.4m
	最大直径樹種	-	チョウセンカラマツ	-	チョウセンカラマツ
	直径	-	40.5cm	-	44.6cm
	保護対象種の本数割合	80%以上	80%以上	80%以上	80%以上
	気象害	-	-	-	-
	病虫害	-	-	-	-
	気象害等のコメント	-	-	-	-
	エゾシカ痕跡	シカ道、足跡、糞	糞	シカ道、足跡、糞、角研ぎ	シカ道、糞
	その他痕跡	-	-	-	-
	痕跡の程度	小	軽微	小	小
	痕跡のコメント	シカのハンゴンソウ食痕わずかにあり	特になし	シカのミヤマヤブタバコ食痕、エゾイタヤの角研ぎ痕若干あり	特になし
林床植生	主要構成種（主体は80%以上）	草本類主体	草本類主体	草本類主体	草本類主体
	優占する植物種	ワラビ、フッキソウ	ワラビ、フッキソウ	フッキソウ、ヒトリシズカ	フッキソウ、ヒトリシズカ
	植被率	-	40%	-	50%
	植生高	-	0.1～0.7m	-	0.1～0.5m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種：なし 保護対象種以外：普通	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種：なし 保護対象種以外：普通
保護林の状況		チョウセンカラマツの更新は無し。トドマツ、アカエゾマツの幼木は見られる。	高木層はチョウセンカラマツがまばらに生育し、亜高木層以下はエゾイタヤ、ハリギリ等が優占する。	チョウセンカラマツの更新は無し。実生はエゾイタヤ、ヤチダモ、ミズキなどが見られる。	高木層はチョウセンカラマツがまばらに生育し、亜高木層以下はエゾイタヤ、ハリギリ等が優占する。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然撹乱 カ:その他 －:特になし		確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

プロット15-1

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

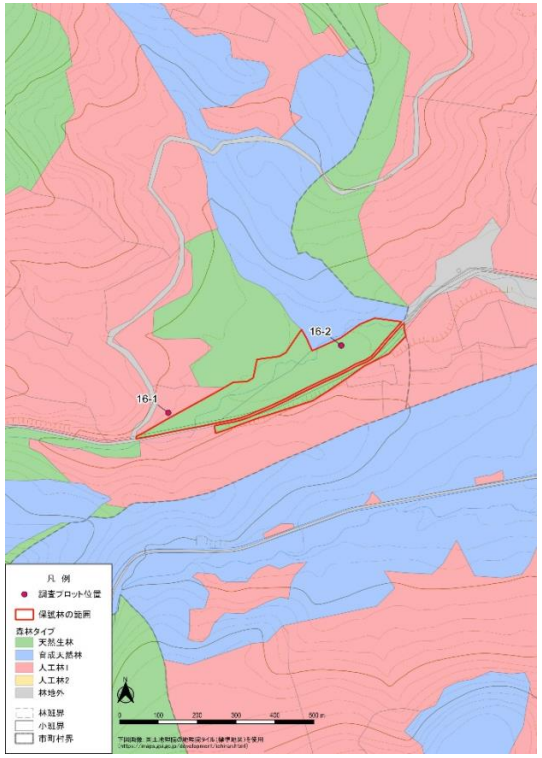
プロット15-2

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

確認された影響[特になし]
- 林況に大きな変化はなかった。
- チョウセンカラマツは高木層にまばらにみられ、生育状況は健全であったが天然更新はみられなかった。その他の樹種の天然更新は順調であった。
- 林分としては概ね良好な状態であるが、チョウセンカラマツの更新については留意が必要である。
- 更新状況を注視つつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

16 旭ケヤマハンノキ遺伝資源希少個体群保護林

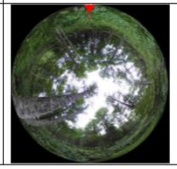
実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(2箇所)



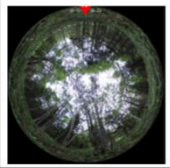
ケヤマハンノキの萌芽

保護林名		旭ケヤマハンノキ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		ケヤマハンノキ			
プロットNo.		16-1		16-2	
旧No.		31504-1		31504-2	
調査日		2018/8/24	2023/7/26	2018/8/11	2023/7/26
プロット情報	標高	606m		588m	
	斜面方位、傾斜(平均)	S 6°		- 0°	
	局所地形	平坦地		平坦地	
林分状況	【高】主要構成樹種	ケヤマハンノキ	ケヤマハンノキ	ケヤマハンノキ、シラカンバ	ケヤマハンノキ
	【高】樹高	10～20m	19～27m	10～20m	18～23m
	【高】植被率	-	70%	-	80%
	【高】DBH	20～30cm	22～60cm	20～30cm	21～36cm
	【亜】主要構成樹種	アカエゾマツ	アカエゾマツ、エゾマツ	アカエゾマツ、パラコヤナギ	アカエゾマツ、エゾマツ
	【亜】樹高	5～10m	10～14m	10m以上	7～10m
	【亜】植被率	-	5%	-	5%
	【亜】DBH	10～20cm	12～23cm	10～20cm	10～14cm
	【低】主要構成樹種	ケヤマハンノキ、エゾマツ	ケヤマハンノキ、トドマツ	アカエゾマツ	なし
	【低】樹高	1～5m	2～4m	1～5m	-
	【低】植被率	-	2%	-	0%
	【低】DBH	5cm未満	2～5cm	5～10cm	-
	最大樹高樹種	-	ミズナラ	-	シラカンバ
	樹高	-	26.5m	-	23.1m
	最大直径樹種	-	ミズナラ	-	シラカンバ
	直径	-	58.2cm	-	36.2cm
	保護対象種の本数割合	80%以上	80%以上	50～80%	50～80%
	気象害	風害(軽微)	風害(軽微)	-	風害(軽微)
	病虫害	-	-	-	-
	気象害等のコメント	-	-	-	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	シカ道、足跡、糞	足跡、糞、食痕	食痕、角研ぎ	角研ぎ、食痕
	その他痕跡	-	-	-	-
	痕跡の程度	軽微	小	小	中
	痕跡のコメント	シカのエゾイラクサ食痕若干あり	シカのササ食痕、剥皮少数あり	シカのケヤマハンノキへの角研ぎ痕、古い剥皮あり	シカのササ食痕、角研ぎ痕、剥皮あり
林床植生	主要構成種(主体は80%以上)	ササ類主体	各種混在	ササ類主体	ササ類主体
	優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ、ミゾソバ	クマイザサ	クマイザサ
	植被率	密生	90%	密生	80%
	植生高	0.5～1.5m	0.1～1.3m	0.5～1.5m	0.1～1.3m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が見られる	保護対象種：少ない 保護対象種以外：少ない	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種：少ない 保護対象種以外：なし
保護林の状況		ケヤマハンノキは倒木上で更新あり。萌芽も見られる。	ケヤマハンノキの倒木によるギャップが散見される。アカエゾマツ、エゾマツ、トドマツが亜高木、低木層で優占しつつある。	林床はササが密生しており、天然更新は見られない。	プロット1よりも林齢がやや若い。亜高木層はアカエゾマツが優占しており、今後針葉樹林に遷移する可能性がある。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 －:特になし		確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

プロット16-1

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

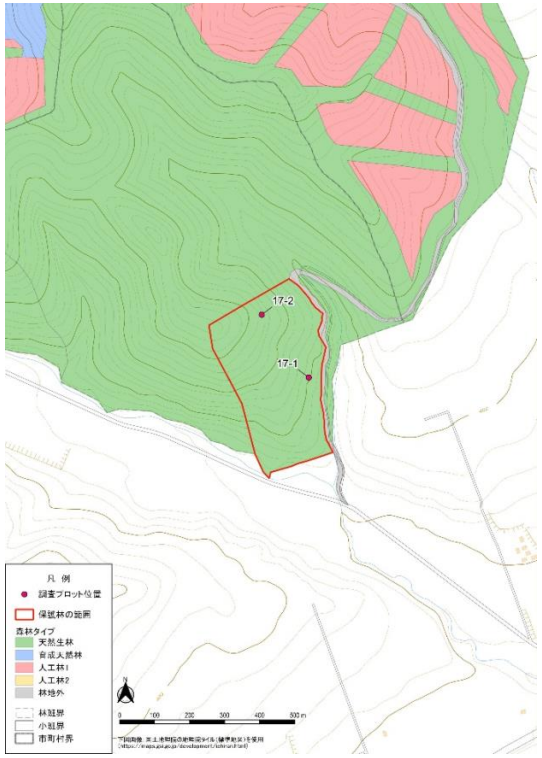
プロット16-2

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

確認された影響[特になし]
- 林分は概ね健全であったが、倒木によるギャップがみられた。
- 林床はササが密生し天然更新は少ないが、ケヤマハンノキの萌芽はみられた。
- 亜高木層以下はアカエゾマツが優占しており、今後は針葉樹林へ遷移していく可能性がある。ケヤマハンノキの生育状況には留意が必要である。
- 遷移状況を注視しつつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

17 温根湯イタヤカエデ等遺伝資源希少個体群保護林

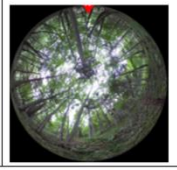
実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(2箇所)



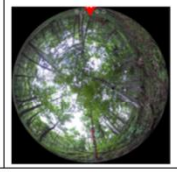
エゾイタヤの実生

保護林名		温根湯イタヤカエデ等資源希少個体群保護林			
保護対象種		イタヤカエデ(エゾイタヤ)、ハウチワカエデ、アズキナシ			
プロットNo.		17-1		17-2	
旧No.		31505-1		31505-2	
調査日		2018/6/25	2023/7/27	2018/6/25	2023/7/27
プロット情報	標高	416m		497m	
	斜面方位、傾斜(平均)	SE 22°		SE 22°	
	局所地形	山腹平衡斜面		山腹凸斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種	トドマツ、ハリギリ	シナノキ、エゾイタヤ	オオバボダイジュ、エゾイタヤ	シナノキ、アサダ
	【高】樹高	10～20m	17～23m	10～20m	21～28m
	【高】植被率	–	90%	–	80%
	【高】DBH	20～30cm	27～48cm	30cm以上	25～50cm
	【亜】主要構成樹種	トドマツ、エゾイタヤ	オオモミジ、ハウチワカエデ	エゾイタヤ	ヤマモミジ、エゾイタヤ
	【亜】樹高	10m以上	7～12m	5～10cm	8～16m
	【亜】植被率	–	30%	–	40%
	【亜】DBH	10～20cm	6～15cm	10～20cm	9～22cm
	【低】主要構成樹種	トドマツ	エゾイタヤ、トドマツ	アカエゾマツ	トドマツ
	【低】樹高	1～5m	2～5m	1～5m	2～5m
	【低】植被率	–	10%	–	10%
	【低】DBH	5～10cm	2～5cm	5～10cm	1～6m
	最大樹高樹種	–	トドマツ	–	シナノキ
	樹高	–	23.2m	–	27.8m
	最大直径樹種	–	トドマツ	–	シナノキ
	直径	–	47.5cm	–	49.8cm
	保護対象種の本数割合	20～50%	20～50%	20～50%	20%以下
	気象害	風害(軽微)	風害(軽微)	風害(軽微)	風害(軽微)
	病虫害	–	–	–	–
	気象害等のコメント	–	トドマツの幹折れわずかにあり	風倒木は古い	風害による根返り木わずかにあり
	エゾシカ痕跡	シカ道、足跡、糞、食痕	シカ道、糞、食痕	シカ道、足跡、糞、食痕	糞
	その他痕跡	ネズミ類(食痕)	–	–	–
	痕跡の割合	大	軽微	大	–
	痕跡のコメント	シカのササ、下層植生の古い食痕多い	シカのササ食痕わずかにあり	シカのササ、下層植生の古い食痕多い	特になし
林床植生	主要構成種(主体は80%以上)	各種混在	各種混在	各種混在	各種混在
	優占する植物種	クマイザサ、ヨブスマソウ	クマイザサ、フッキソウ	クマイザサ、クルマバソウ	クマイザサ、ヒトリシズカ
	植被率	疎生または散在	70%	疎生または散在	50%
	植生高	0.5m未満	0.1～0.8m	0.5m未満	0.1～0.5m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が見られる	保護対象種：少ない 保護対象種以外：普通	保護対象種の実生の天然更新が見られる	保護対象種：普通 保護対象種以外：普通
保護林の状況		シカの食痕が多く見られ、特にササは全域で食べられている。	主にエゾイタヤは高木、低木層に、アズキナシは高木層、ハウチワカエデは亜高木層で見られる。	シカの食痕が多く見られ、特にササは全域で食べられている。	シナノキが優占し、エゾイタヤは高木、亜高木層で見られる。アズキナシ、ハウチワカエデは少ない。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 キ:特になし		確認された影響[–]	確認された影響[–]	確認された影響[–]	確認された影響[–]
		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

プロット17-1

項目	H30	R5	比較結果等
北方向			大きな変化はない。
東方向	写真なし		大きな変化はない。
南方向			大きな変化はない。
西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

プロット17-2

項目	H30	R5	比較結果等
北方向			大きな変化はない。
東方向	写真なし		大きな変化はない。
南方向			大きな変化はない。
西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

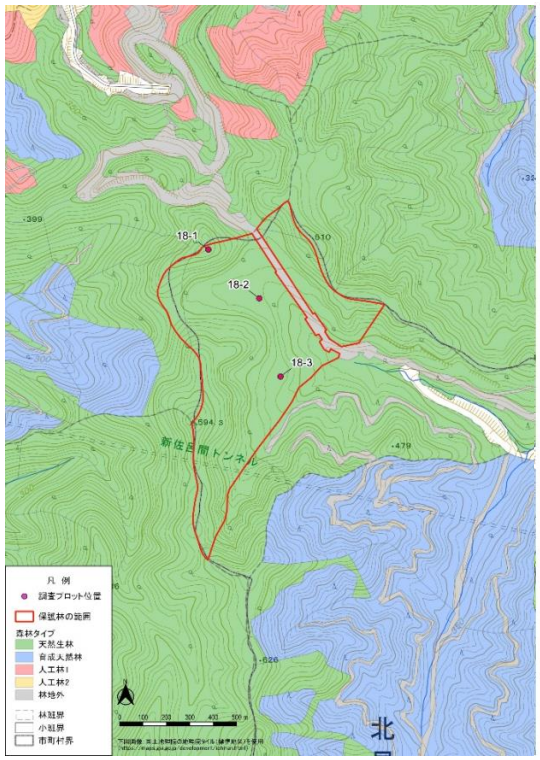
確認された影響[特になし]
・本保護林はイタヤカエデ(エゾイタヤ)、ハウチワカエデ、アズキナシの希少個体群生育地として保護されている森林である。
・わずかに風害による幹折れや根返り木がみられたが、林況に大きな変化はなく健全な状態であった。
・保護対象種およびその他の樹種の実生や稚樹等の天然更新もみられた。
・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

3-3.希少個体群保護林 (3/6)

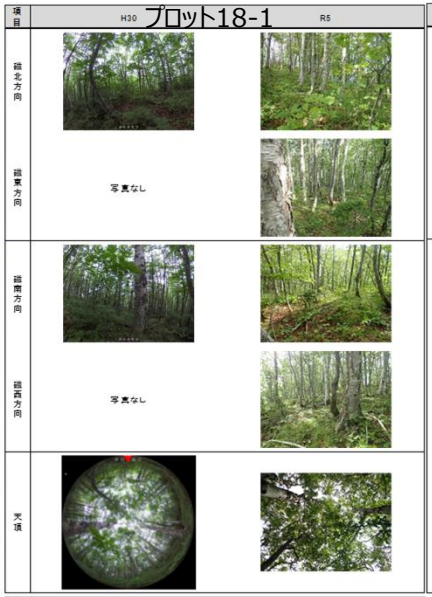
No	保護林ID	保護林名	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・対応(案)
18	31506	端野ダケカンバ等遺伝資源希少個体群保護林(57.53ha)	ダケカンバ、シナノキ、オヒョウ	H30	・森林概況調査（3箇所）	・林況に大きな変化はなく、健全な状態であった。 ・実生や稚樹もみられ、天然更新は順調に行われている。 ・ダケカンバの立木は少なく、更新木もみられない点には留意が必要である。	5年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
19	31507	日吉ホオノキ等遺伝資源希少個体群保護林(7.36ha)	ホオノキ、アサダ	H30	・森林概況調査（2箇所）	・その他樹種の天然更新は順調であるが、ホオノキの天然更新は少数みられる程度。アサダの天然更新はみられなかった。	5年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
20	31508	端野シラカンバ等遺伝資源希少個体群保護林(8.53ha)	シラカンバ、ハリギリ、チョウセンヤマナラシ	H30	・森林概況調査（2箇所）	・保護対象種の高木もみられ林況は健全だが、林床はササが密生し実生は少数だった。 ・保護林内の一部が伐採され、植林されていた。	5年	**確認された影響[その他]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
21	31509	旭エゾマツ遺伝資源希少個体群保護林(6.22ha)	エゾマツ	H30	・森林概況調査（2箇所）	・エゾマツ及びその他の立木は健全であった。 ・エゾシカの影響に留意が必要である。	5年	**確認された影響[野生鳥獣]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
22	31510	佐呂間ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林(10.86ha)	ミズナラ	H30	・森林概況調査（2箇所）	・林況に大きな変化はなかった。 ・ミズナラは各階層にみられ、大径木も散見された。天然更新も少数ながら確認された。	5年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
23	31511	常呂モンゴリナラ遺伝資源希少個体群保護林(18.25ha)	モンゴリナラ	H30	・森林概況調査（2箇所）	・林況に大きな変化はなかった。 ・林床にシカの痕跡が多く、天然更新の確認はやや少なかった。 ・健全な林分であるが、更新には留意が必要な林分といえる。	5年	**確認された影響[野生鳥獣]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

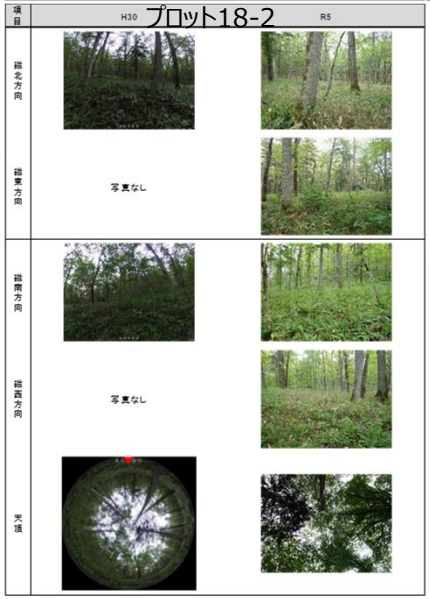
18 端野ダケカンバ等遺伝資源希少個体群保護林

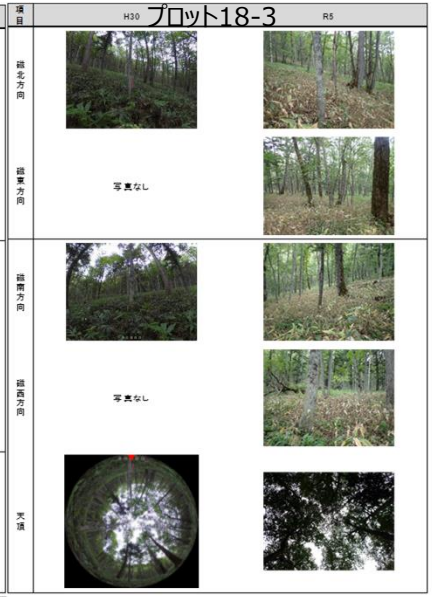
実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(3箇所)



シナノキの稚樹







保護林名		端野ダケカンバ等遺伝資源希少個体群保護林					
保護対象種		ダケカンバ、シナノキ、オヒョウ					
プロットNo.		18-1		18-2		18-3	
旧No.		31506-3		31506-1		31506-2	
調査日		2018/8/23	2023/9/25	2018/8/23	2023/9/25	2018/8/23	2023/9/25
プロット情報	標高	518m		425m		426m	
	斜面方位、傾斜(平均)	SE 20°		SE 5°		SE 15°	
	局所地形	平坦尾根		山腹凹斜面		山腹平衡斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種	ダケカンバ、シナノキ	トドマツ、シナノキ	オヒョウ、ヤチダモ	カツラ、オヒョウ	オヒョウ、カツラ	カツラ、オヒョウ
	【高】樹高	10～20m	18～22m	20m以上	17～38m	20m以上	19～35m
	【高】植被率	-	80%	-	70%	-	60%
	【高】DBH	20～30cm	22～42cm	30cm以上	35～101cm	30cm以上	40～123cm
	【亜】主要構成樹種	エゾイタヤ、アズキナシ	シナノキ、アズキナシ	シウリザクラ	トドマツ、オヒョウ	オヒョウ、エゾイタヤ	シナノキ、オヒョウ
	【亜】樹高	5～10m	8～15m	5～10m	10～15m	5～10m	13～18m
	【亜】植被率	-	50%	-	40%	-	40%
	【亜】DBH	10～20cm	15～35cm	10～20cm	20～42cm	10～20cm	16～33cm
	【低】主要構成樹種	ハウチワカエデ、ホオノキ	ハウチワカエデ、ホオノキ	なし	オヒョウ、シウリザクラ	オヒョウ、エゾイタヤ	シナノキ、ハウチワカエデ
	【低】樹高	1～5m	3～8m	-	4～10m	1～5m	3～10m
	【低】植被率	-	20%	-	10%	-	20%
	【低】DBH	5cm未満	3～6cm	-	12～20cm	5～10cm	4～13cm
	最大樹高樹種	-	ダケカンバ	-	カツラ	-	カツラ
	樹高	-	21.8m	-	38.7m	-	35.2m
	最大直径樹種	-	ダケカンバ	-	カツラ	-	カツラ
	直径	-	42.2cm	-	101.0cm	-	123.0cm
	保護対象種の本数割合	50～80%	50～80%	50～80%	20～50%	20～50%	50～80%
	気象害	-	-	-	-	-	-
	病虫害	-	-	-	-	-	-
	気象害等のコメント	-	-	-	-	-	-
	エゾシカ痕跡	シカ道、足跡、糞	食痕	シカ道	食痕	-	食痕
	その他痕跡	-	-	-	-	-	-
	痕跡の割合	-	小	-	-	-	-
	痕跡のコメント	-	特になし	-	特になし	-	特になし
林床植生	主要構成種（主体は80%以上）	草本類主体	草本類主体	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体
	優占する植物種	フッキソウ	フッキソウ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
	植被率	-	60%	疎生又は散在	90%	密生	90%
	植生高	-	0.1～1.0m	0.5～1.5m	0.1～1.0m	0.5～1.5m	0.1～1.2m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が見られる	保護対象種：普通 保護対象種以外：普通	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種：少ない 保護対象種以外：少ない	保護対象種の実生の天然更新が見られる	保護対象種：少ない 保護対象種以外：少ない
保護林の状況		シナノキは萌芽も含め盛んに更新している。ダケカンバが更新するには林床が暗い。	保護対象種のうち、オヒョウ、ダケカンバの更新木は見られないが、シナノキの更新木は多く見られる。	オヒョウは多く見られる。ダケカンバ、シナノキは少ない。	保護対象種のうち、オヒョウは各階層に見られる。ダケカンバは遷移の影響で減少しつつある。	ダケカンバ倒木上にシナノキ実生が多い。オヒョウは多く見られるが、実生は見られない。	保護対象種のうち、ダケカンバはプロット外に少数見られる程度。シナノキ、オヒョウは亜高木、低木層で多く見られ、実生および萌芽も見られる。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然撹乱 カ:その他 ー:特になし		確認された影響[ー] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ー] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ー] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ー] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ー] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ー] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真							

確認された影響[特になし]

・本保護林はダケカンバ、シナノキ、オヒョウの希少個体群生育地として保護されている森林である。

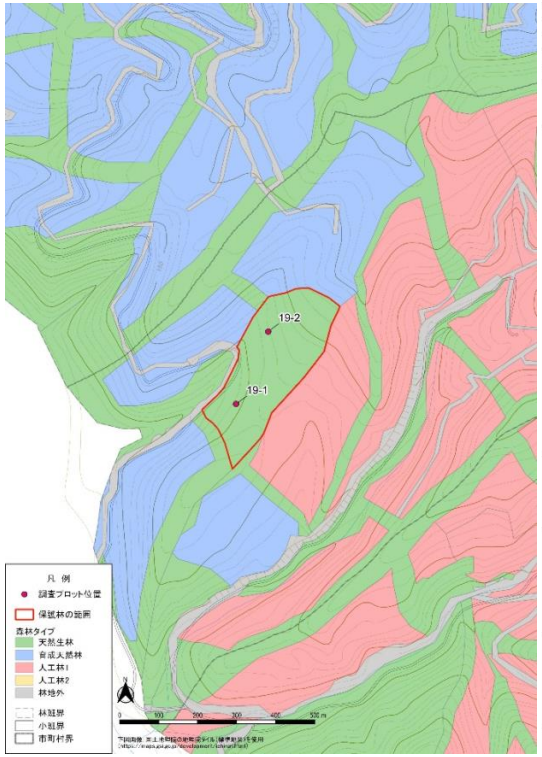
・林況に大きな変化はなく健全な状態であった。シナノキ、オヒョウおよびその他の樹種の実生や稚樹もみられ、天然更新は順調に行われている。

・ダケカンバの立木は少なく、更新木もみられない点には留意が必要である。

・更新状況を注視しつつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

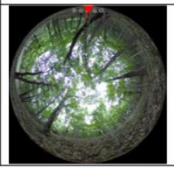
19 日吉ホオノキ等遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(2箇所)



保護林名		日吉ホオノキ等遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		ホオノキ、アサダ			
プロットNo.		19-1		19-2	
旧No.		31507-1		31507-2	
調査日		2018/6/29	2023/9/27	2018/6/29	2023/9/27
プロット情報	標高	87m		118m	
	斜面方位、傾斜(平均)	NW 14°		NE 22°	
	局所地形	山腹平衡斜面		山腹平衡斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種	ミズナラ、シナノキ	ミズナラ、エゾイタヤ	ミズナラ、アサダ	ミズナラ、アサダ
	【高】樹高	20m以上	18～33m	20m以上	17～27m
	【高】植被率	-	50%	-	70%
	【高】DBH	30cm以上	35～87cm	30cm以上	30～69cm
	【亜】主要構成樹種	ホオノキ、オオバボダイジュ	オオバボダイジュ、ホオノキ	エゾイタヤ、アサダ	エゾイタヤ、アサダ
	【亜】樹高	10m以上	10～17m	5～10m	11～15m
	【亜】植被率	-	30%	-	60%
	【亜】DBH	10～20cm	13～19cm	10～20cm	20～28cm
	【低】主要構成樹種	オオバボダイジュ	キタコブシ、オオバボダイジュ	エゾイタヤ	エゾイタヤ
	【低】樹高	1～5m	3～6m	5m以上	3～9m
	【低】植被率	-	10%	-	20%
	【低】DBH	5～10cm	4～7cm	5～10cm	4～6m
	最大樹高樹種	-	エゾイタヤ	-	ミズナラ
	樹高	-	33.2m	-	27.5m
	最大直径樹種	-	ミズナラ	-	ミズナラ
	直径	-	87.0cm	-	69.3cm
	保護対象種の本数割合	20%以下	20%以下	20～50%	20～50%
	気象害	-	-	-	-
	病虫害	-	-	-	-
	気象害等のコメント	-	-	-	-
鳥獣類痕跡	Tゾシカ痕跡	食痕	-	シカ道、食痕	-
	その他痕跡	-	-	-	-
	痕跡の割合	中	-	中	-
	痕跡のコメント	フッキソウ、ササ、アサダにシカの古い食痕あり	特になし	尾根沿いにディアーラインあり	特になし
林床植生	主要構成種 (主体は80%以上)	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体
	優占する植物種	テシマザサ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
	植被率	密生	80%	密生	40%
	植生高	0.5～1.5m	0.4～1.0m	0.5～1.5m	0.1～1.0m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種：少ない 保護対象種以外：普通	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種：少ない 保護対象種以外：普通
保護林の状況		ササが密生し天然更新は少ない。	ホオノキは亜高木層、アサダは高木層で見られる。また、ホオノキの萌芽が少数見られる。ハルニレ、ハリギリ等の天然更新は瞬調。	実生はウワミズザクラ、ミズナラ、エゾイタヤなどが見られる。	ホオノキは主に亜高木、低木層で見られる。アサダは高木、亜高木層で見られるが天然更新は見られない。その他の種の天然更新は瞬調。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 －:特になし		確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

プロット19-1

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

プロット19-2

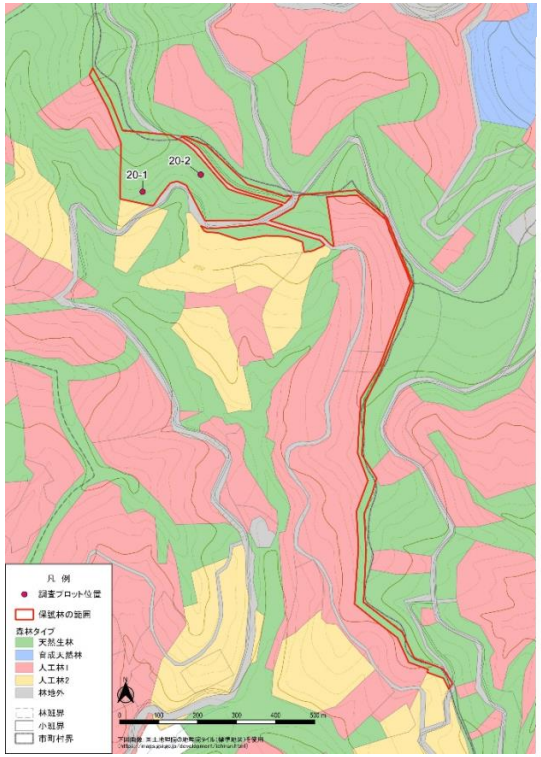
項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

確認された影響[特になし]
・本保護林はホオノキ、アサダの希少個体群生育地として保護されている森林である。
・ホオノキは主に亜高木層以下、アサダは主に亜高木層以上でみられ両種とも立木は健全な状態であった。
・その他樹種の天然更新は旺盛であるが、ホオノキの天然更新は少数みられる程度でアサダの天然更新はみられなかった。
・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

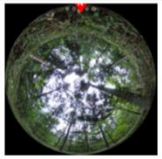
ホオノキの高木

20 端野シラカンバ等遺伝資源希少個体群保護林

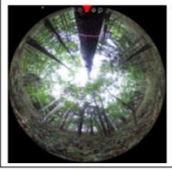
実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(2箇所)



プロット20-1

	H30	R5	比較結果等
磁北方向			プロット周辺はカラマツの若齢人工林となっていた。
磁東方向	写真なし		プロット周辺はカラマツの若齢人工林となっていた。
磁南方向			プロット周辺はカラマツの若齢人工林となっていた。
磁西方向	写真なし		プロット周辺はカラマツの若齢人工林となっていた。
天頂			プロット周辺はカラマツの若齢人工林となっていた。

プロット20-2

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

保護林名		端野シラカンバ等遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		シラカンバ、チョウセンヤマナラシ、ハリギリ			
プロットNo.		20-1		20-2	
旧No.		31508-1		31508-2	
調査日		2018/8/11	2023/9/26	2018/8/11	2023/9/26
プロット情報	標高	268m		285m	
	斜面方位、傾斜(平均)	SW 28°		SW 20°	
	局所地形	山腹平衡斜面		山腹平衡斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種	トドマツ、ハリギリ	シラカンバ、ハリギリ	シラカンバ、ハリギリ	ハリギリ、チョウセンヤマナラシ
	【高】樹高	20m以上	18～26m	20m以上	18～24m
	【高】植被率	-	60%	-	70%
	【高】DBH	30cm以上	24～45cm	20～30cm	35～54cm
	【亜】主要構成樹種	ハリギリ、イヌエンジュ	シラカンバ、チョウセンヤマナラシ	イタヤカエデ	トドマツ、ハリギリ
	【亜】樹高	5m以下	10～15m	5～10m	15～17m
	【亜】植被率	-	20%	-	10%
	【亜】DBH	10cm未満	18～21cm	10cm未満	16～25cm
	【低】主要構成樹種	ハリギリ	アカイタヤ、エゾイタヤ	なし	シナノキ、エゾイタヤ
	【低】樹高	1～5m	3～9m	-	3～7m
	【低】植被率	-	40%	-	10%
	【低】DBH	5cm未満	4～7cm	-	3～8m
	最大樹高樹種 樹高	- -	シラカンバ 26.2m	- -	ハリギリ 24.3m
	最大直径樹種 直径	- -	シラカンバ 44.6cm	- -	ハリギリ 54.4cm
	保護対象種の本数割合	20%以下	50～80%	80%以上	50～80%
	気象害 病虫害	- カミキリムシ類	- -	- -	- -
	気象害等のコメント	-	-	-	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡 その他痕跡 痕跡の割合	糞 - -	足跡、食痕 - 軽微	糞 - -	- - -
	痕跡のコメント	-	シカの剥皮わずかにあり	-	-
林床植生	主要構成種 (主体は80%以上)	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体
	優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ、クロイチゴ	チシマザサ	クマイザサ
	植被率	密生	80%	密生	80%
	植生高	0.5～1.5m	0.1～1.5m	0.5m未満	0.6～1.5m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が見られる	保護対象種：多い 保護対象種以外：少ない	保護対象種の実生の天然更新が見られる	保護対象種：なし 保護対象種以外：少ない
保護林の状況		-	プロット周辺はカラマツの若齢人工林となっていた。	-	保護対象種のハリギリ、チョウセンヤマナラシ、シラカバの天然更新は見られないが、立木の生育は健全である。
林分等の状況		大きな変化は認められない	伐採の影響あり	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア：野生鳥獣 イ：病虫害 ウ：外来種 エ：温暖化 オ：自然攪乱 カ：その他 －：特になし		確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[カ] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

確認された影響[その他]

・本保護林はシラカンバ、チョウセンヤマナラシ、ハリギリの希少個体群生育地として保護されている森林である。

・プロット20-1の周囲は、カラマツの若齢人工林となっていた。その後に確認したところ、このプロットは隣接する2288ぬ1小班（昭和５年植栽トドマツ人工林、令和元年主伐、令和3年にカラマツ再造林）であることが判明した。

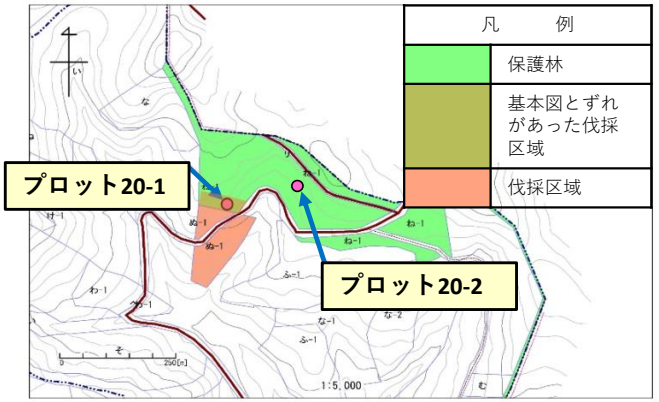
・保護林と隣接する2288ぬ1小班について、現地と森林基本図上の区分に相違があったため、小班界を整理し今後もそれぞれ継続し管理する。

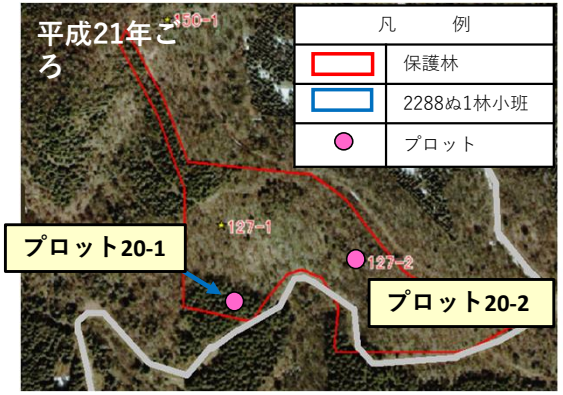
【補足説明】20端野シラカンバ等遺伝資源希少個体群保護林の区域の修正について

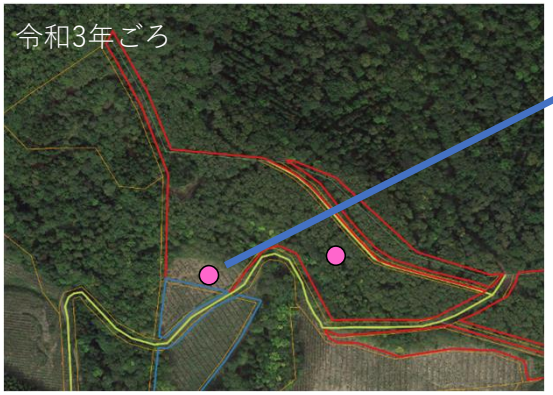
今後の取扱い

- 端野シラカンバ等遺伝資源希少個体群保護林(2288ね１林小班　8.53ha）及び隣接する2288ぬ1林小班（昭和5年植栽トドマツ人工林、令和元年主伐、令和３年再造林）について、現地と森林基本図上の区域に相違があったことが判明した。具体的には、当該保護林の森林基本図における区域が、隣接する人工林にくいこむ形で表現されていたとともに、プロット20-1がこの人工林に設定されていたところ。

- このことを踏まえ、森林基本図を現地と一致するよう修正するとともに、プロット20-1を2288ね1小班に移動させることとする。これにより、当該保護林の面積については、8.17haに修正されることとなる。





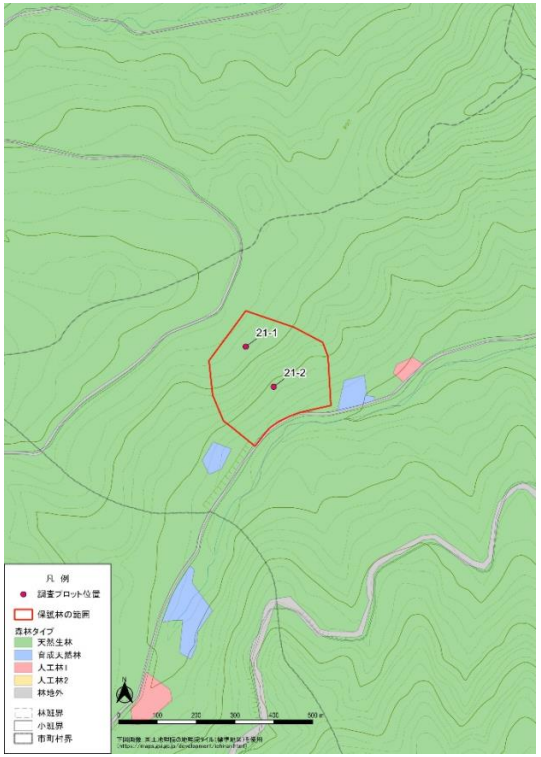


令和5年度調査　プロット20-1箇所

現地写真（令和5年9月26日）

21 旭エゾマツ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(2箇所)



倒木上のエゾマツ稚樹

保護林名		旭エゾマツ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		エゾマツ			
プロットNo.		21-1		21-2	
旧No.		31509-1		31509-2	
調査日		2018/8/24	2023/6/28	2018/8/24	2023/6/28
プロット情報	標高	980m		917m	
	斜面方位、傾斜(平均)	SE 9°		SE 25°	
	局所地形	山腹平衡斜面		山腹平衡斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種	不到達につき記載なし	エゾマツ、トドマツ	不到達につき記載なし	トドマツ、エゾマツ
	【高】樹高		20～27m		21～36m
	【高】植被率		70%		60%
	【高】DBH		34～72cm		32～94cm
	【亜】主要構成樹種		トドマツ、ダケカンバ		トドマツ
	【亜】樹高		8～15m		8～11m
	【亜】植被率		20%		30%
	【亜】DBH		12～21cm		9～12cm
	【低】主要構成樹種		トドマツ、ダケカンバ		トドマツ
	【低】樹高		4～5m		2～4m
	【低】植被率		5%		10%
	【低】DBH		3～5cm		1～5cm
	最大樹高樹種		エゾマツ		アカエゾマツ
	樹高		27.4m		35.5m
	最大直径樹種		エゾマツ		アカエゾマツ
	直径		72.1cm		94.4cm
	保護対象種の本数割合		50～80%		20～50%
	気象害		風害(軽微)		風害(小)
	病虫害		–		–
	気象害等のコメント		–		風倒によるギャップあり
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡		食痕		糞、食痕
	その他痕跡				–
	痕跡の程度		大		大
	痕跡のコメント		シカのササ食痕多い		シカのササ食痕多い
林床植生	主要構成種		ササ類主体		ササ類主体
	(主体は80%以上)				
	優占する植物種		クマイザサ		クマイザサ
	植被率		70%		70%
	植生高		0.1～1.1m		0.5～1.4m
	天然更新状況		保護対象種:少ない		保護対象種:少ない
			保護対象種以外:少ない		保護対象種以外:少ない
保護林の状況			エゾマツ、トドマツが優占し、ギャップにダケカンバが生育する。伐根上にエゾマツ、トドマツの稚樹が見られる。		アカエゾマツの大径木が見られる。エゾマツは倒木上に稚樹が少数見られる。
林分等の状況			シカによる影響あり		シカによる影響あり
評価・課題等確認された影響			確認された影響[ア]		確認された影響[ア]
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然撹乱 カ:その他 –:特になし			引き続きモニタリングによる経過観察を行う		引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

プロット21-1

項目	H30	R5	林分の状況等
樹冠北方向	不到達のため写真なし		シカのササ食痕が多いが、立木は健全な状態である。
樹冠東方向			シカのササ食痕が多いが、立木は健全な状態である。
樹冠南方向			シカのササ食痕が多いが、立木は健全な状態である。
樹冠西方向			シカのササ食痕が多いが、立木は健全な状態である。
天頂			健全な状態である。

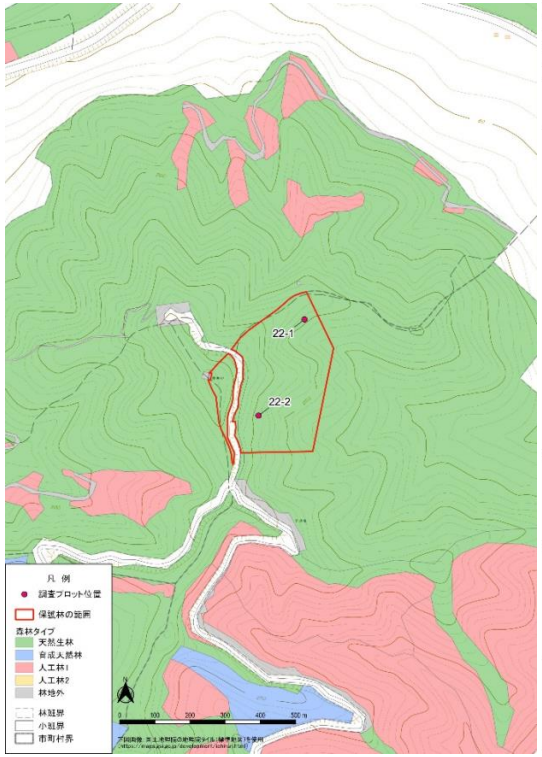
プロット21-2

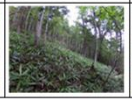
項目	H30	R5	林分の状況等
樹冠北方向	不到達のため写真なし		シカのササ食痕が多いが、立木は健全な状態である。
樹冠東方向			シカのササ食痕が多いが、立木は健全な状態である。
樹冠南方向			シカのササ食痕が多いが、立木は健全な状態である。
樹冠西方向			シカのササ食痕が多いが、立木は健全な状態である。
天頂			健全な状態である。

確認された影響[野生鳥獣]
・エゾマツ及びその他の立木は健全であった。
・風倒木が少数みられ、林床のクマイザサが広範囲でエゾシカに食害されていたが、現状ではエゾマツおよびその他の樹種に大きな影響はみられず、天然更新も倒木や伐根上に少数ながら確認された。
・エゾシカによる影響に留意が必要である。
・シカの食害に留意しつつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

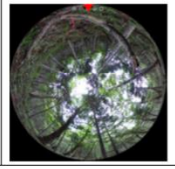
22 佐呂間ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(2箇所)

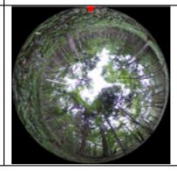


保護林名		佐呂間ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		ミズナラ			
プロットNo.		22-1		22-2	
旧No.		3151O-1		3151O-2	
調査日		2018/8/23	2023/9/28	2018/8/23	2023/9/28
プロット情報	標高	251m		285m	
	斜面方位、傾斜(平均)	SE 30°		SW 20°	
	局所地形	山腹平衡斜面		山腹平衡斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種	ミズナラ、エゾマツ	ミズナラ、ウダイカンバ	トドマツ、ハリギリ	ミズナラ、トドマツ
	【高】樹高	10～20m	20～23m	20m以上	20～23m
	【高】植被率	-	70%	-	80%
	【高】DBH	30cm以上	35～96cm	30cm以上	35～94cm
	【亜】主要構成樹種	トドマツ、エゾイタヤ	トドマツ、ミズナラ	エゾマツ、トドマツ	トドマツ、ハリギリ
	【亜】樹高	5～10m	10～15m	5～10m	13～16m
	【亜】植被率	-	10%	-	50%
	【亜】DBH	10～20cm	15～25cm	10～20cm	13～18cm
	【低】主要構成樹種	エゾイタヤ、ハウチワカエデ	トドマツ、アカイタヤ	ハウチワカエデ、トドマツ	エゾイタヤ、オヒョウ
	【低】樹高	1～5m	2～7m	1～5m	3～7m
	【低】植被率	-	5%	-	1%
	【低】DBH	5cm未満	2～12cm	5～10m	4～13m
	最大樹高樹種	-	ミズナラ	-	ミズナラ
	樹高	-	23.0m	-	23.3m
	最大直径樹種	-	ミズナラ	-	ミズナラ
	直径	-	95.5cm	-	94.0cm
	保護対象種の本数割合	80%以上	20～50%	ほとんど見られない	20%以下
	気象害	-	風害(軽微)	-	風害(小)
	病虫害	-	-	-	-
	気象害等のコメント	-	-	-	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	シカ道	-	糞、角研ぎ	シカ道、足跡、角研ぎ、食痕
	その他痕跡	クマゲラ(食痕)	クマゲラ(食痕)	ネズミ類食痕)	クマゲラ(食痕)
	痕跡の割合	小	軽微	小	小
	痕跡のコメント	ウダイカンバにクマゲラ剥皮あり	-	ハウチワカエデにシカの古い角研ぎ痕、トドマツにネズミ類食痕あり	トドマツにクマゲラ食痕あり
林床植生	主要構成種	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体
	(主体は80%以上)				
	優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
	植被率	疎性または散在	60%	密生	90%
	植生高	0.5m未満	0.1～0.7m	0.5～1.5m	0.3～1.2m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種：少ない 保護対象種以外：普通	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種：少ない 保護対象種以外：少ない
保護林の状況		エゾイタヤ、アサダ、オヒョウ、ハウチワカエデなどの実生が見られる。	トドマツ、ウダイカンバの大径木が見られる。保護対象種のミズナラは実生、萌芽が見られる。	ミズナラはプロット周辺には見られない。実生はカエデ類やシナノキのみ。	ミズナラ、カシワ、シナノキ、トドマツ等の大径木が見られる。ミズナラは稚樹、萌芽が少数見られる。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然撹乱 カ:その他 －:特になし		確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

プロット22-1

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			

プロット22-2

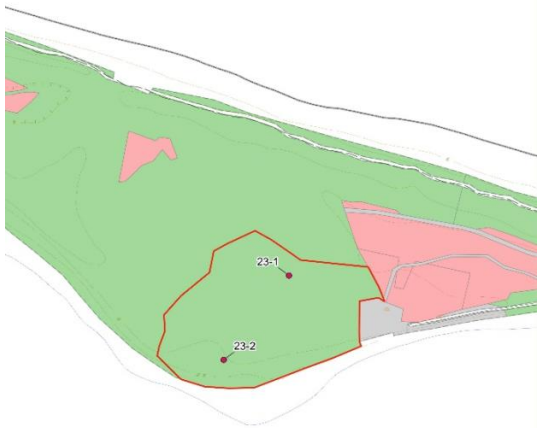
項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			風倒木がみられるものの、影響は少ない。
磁西方向	写真なし		風倒木がみられるものの、影響は少ない。
天頂			大きな変化はない。

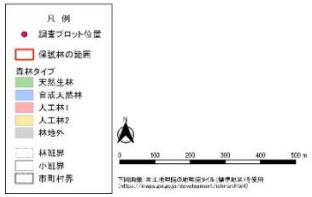
確認された影響[特になし]
- 林況に大きな変化はなかった。
- ミズナラは各階層にみられ、大径木も散見された。天然更新も少数ながら確認された。
- その他の樹種の生育や天然更新も順調であり、概ね健全な林分であるといえる。
- 引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

ミズナラの実生

23 常呂モンゴリナラ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(2箇所)





モンゴリナラの亜高木

保護林名		常呂モンゴリナラ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		モンゴリナラ			
プロットNo.		23-1		23-2	
旧No.		31511-1		31511-2	
調査日		2018/6/25	2023/6/26	2018/6/25	2023/6/26
プロット情報	標高	10m		12m	
	斜面方位、傾斜(平均)	0°		0°	
	局所地形	沖積堆積地		沖積堆積地	
林分状況	【高】主要構成樹種	モンゴリナラ	モンゴリナラ	ミズナラ	カシワ、モンゴリナラ
	【高】樹高	10～20m	18～26m	20m以上	20～24m
	【高】植被率	–	90%	–	90%
	【高】DBH	30cm以上	23～77cm	30cm以上	25～73cm
	【亜】主要構成樹種	エゾイタヤ	エゾイタヤ	ハリギリ	エゾイタヤ
	【亜】樹高	5～10m	7～14m	5～10m	7～15m
	【亜】植被率	–	50%	–	20%
	【亜】DBH	10～20cm	10～16cm	10～20cm	6～12cm
	【低】主要構成樹種	エゾイタヤ	エゾイタヤ	エゾイタヤ	エゾイタヤ
	【低】樹高	1～5m	4m	1～5m	3～5m
	【低】植被率	–	1%	–	30%
	【低】DBH	5cm未満	3cm	5cm未満	3～5m
	最大樹高樹種	–	モンゴリナラ	–	モンゴリナラ
	樹高	–	25.6m	–	24.2m
	最大直径樹種	–	モンゴリナラ	–	モンゴリナラ
	直径	–	77.0cm	–	72.5cm
	保護対象種の本数割合	80%以上	20～50%	80%以上	20%以下
	気象害	–	–	–	–
	病虫害	–	–	–	–
	気象害等のコメント	–	–	–	–
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	食痕	シカ道、足跡、糞、食痕	食痕	シカ道、糞、角研ぎ、食痕
	その他痕跡	–	–	–	–
	痕跡の程度	小	大	小	大
	痕跡のコメント	–	シカの下層植生食痕多い	–	シカの下層植生食痕多い
林床植生	主要構成種(主体は80%以上)	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体
	優占する植物種	クマイザサ	ミヤコザサ	クマイザサ	ミヤコザサ
	植被率	密生	70%	密生	50%
	植生高	1.0m未満	01～06m	1.0m未満	01～05m
	天然更新状況	保護対象種の低木の天然更新が見られる	保護対象種：少ない 保護対象種以外：多い	保護対象種の低木の天然更新が見られる	保護対象種：少ない 保護対象種以外：普通
保護林の状況		エゾシカの痕跡は一部に見られるが、保護対象種への影響は無し。	モンゴリナラとされる個体は高木層に見られ、亜高木層以下にはない。健全ではあるが、更新にはやや不安が残る。シカの影響に留意が必要である。	モンゴリナラ、ナナカマドの立ち枯れあり。エゾシカの痕跡は一部に見られるが、保護対象種への影響は無し。	健全な林分である。モンゴリナラの特徴が顕著な個体は、亜高木層にに本見られる。シカの影響もあり、更新にはやや不安が残る。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然撹乱 カ:その他 －:特になし		確認された影響[－]	確認された影響[ア]	確認された影響[－]	確認された影響[ア]
		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

プロット23-1

項目	H26	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向			大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向			大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

プロット23-2

項目	H26	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向			大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向			大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

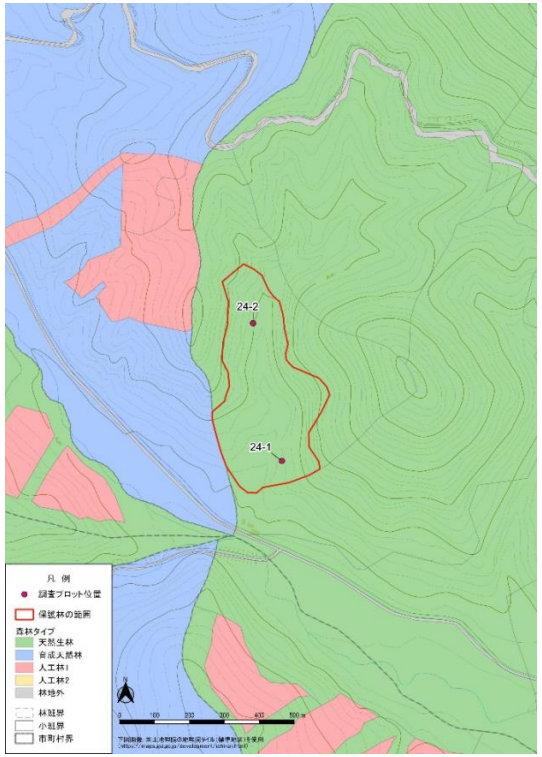
確認された影響[野生鳥獣]
- 林況に大きな変化はなかった。
- 高木層のモンゴリナラ、カシワは健全な状態であった。
- 林床にシカの痕跡が多く、天然更新の確認はやや少なかった。
- 健全な林分であるが、更新には留意が必要な林分といえる。
- シカによる影響を注視しつつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

3-3.希少個体群保護林 (4/6)

No	保護林ID	保護林名	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・対応(案)
24	31512	置戸アカエゾマツ希少個体群保護林 (13.13ha)	アカエゾマツ	H30	・森林概況調査 （2箇所）	・高木層にアカエゾマツが発達していた。 ・トドマツおよびアカエゾマツの実生と稚樹が複数みられた。	5年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
25	31601	斜里ダケカンバ遺伝資源希少個体群保護林 (6.00ha)	ダケカンバ	H30	・森林概況調査 （2箇所）	・林況に大きな変化はみられなかった。 ・大径木もみられるなど立木は健全な状態であった。	5年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
26	31602	宇登呂キハダ遺伝資源希少個体群保護林 (5.50ha)	キハダ	H30	・森林詳細調査 （2箇所）	・キハダの確認数は少なかった。立木に関しては健全に生育している。 ・キハダの天然更新はやや少なく、留意が必要である。	5年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
27	31603	宇登呂エゾマツ等遺伝資源希少個体群保護林 (10.79ha)	エゾマツ、トドマツ	H30	・森林概況調査 （2箇所）	・局所的に風倒木によるギャップがみられるものの、自然撹乱の範囲であり、天然更新もみられる。 ・下層植生のエゾシカ食痕がやや多く、留意が必要である。	5年	**確認された影響[野生鳥獣]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
28	31604	宇登呂イチイ遺伝資源希少個体群保護林 (7.65ha)	イチイ	H30	・森林詳細調査 （2箇所）	・枯損木が多く確認された。 ・特にイチイの枯損が多く、天然更新も確認されなかった。 ・シカの痕跡も多く、食害の可能性が高い。 ・モニタリングの頻度を上げ、保護ネット等による保護対策等も検討する。	5年	**確認された影響[野生鳥獣]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

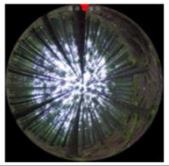
24 置戸アカエゾマツ希少個体群保護林

実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(2箇所)

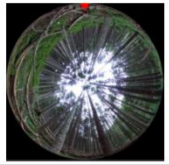


保護林名		置戸アカエゾマツ希少個体群保護林			
保護対象種		アカエゾマツ			
プロットNo.		24-1		24-2	
旧No.		31512-1		31512-2	
調査日		2018/8/24	2023/7/26	2018/8/24	2023/7/26
プロット情報	標高	545m		576m	
	斜面方位、傾斜(平均)	W 22°		SE 27°	
	局所地形	山腹平衡斜面		山腹浸食面	
林分状況	【高】主要構成樹種	アカエゾマツ、トドマツ	アカエゾマツ、トドマツ	アカエゾマツ、トドマツ	アカエゾマツ、トドマツ
	【高】樹高	20m以上	22～27m	20m以上	22～27m
	【高】植被率	-	90%	-	70%
	【高】DBH	20～30cm	15～35cm	20～30cm	15～44cm
	【亜】主要構成樹種	なし	なし	なし	なし
	【亜】樹高	-	-	-	-
	【亜】植被率	-	0%	-	0%
	【亜】DBH	-	-	-	-
	【低】主要構成樹種	なし	なし	なし	トドマツ
	【低】樹高	-	-	-	2～3m
	【低】植被率	-	0%	-	10%
	【低】DBH	-	-	-	1～3cm
	最大樹高樹種	-	アカエゾマツ	-	トドマツ
	樹高	-	27.2m	-	27.4m
	最大直径樹種	-	アカエゾマツ	-	トドマツ
	直径	-	34.8cm	-	44.2cm
	保護対象種の本数割合	50～80%	80%以上	50～80%	50～80%
	気象害	風害(中)	風害(軽微)	風害(中)	風害(中)
	病虫害	-	-	-	-
	気象害等のコメント	風倒木多い	-	風倒木多い	風倒木多い
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	シカ道、足跡、糞	シカ道、糞	糞、食痕	食痕
	その他痕跡	-	-	ヒグマ(食痕)	-
	痕跡の程度	軽微	軽微	小	軽微
	痕跡のコメント	-	シカの影響は少ない	林道沿いにフキのクマ食痕、オシダにシカ食痕あり	オシダにシカ食痕あり
林床植生	主要構成種(主体は80%以上)	その他	その他	各種混在	各種混在
	優占する植物種	コケ類、トドマツ	コケ類、トドマツ	ゴゼンタチバナ、トドマツ	トドマツ、オシダ
	植被率	-	5%	-	70%
	植生高	-	0.1～0.2m	-	0.1～1.3m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が見られる	保護対象種：多い 保護対象種以外：多い	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種：少ない 保護対象種以外：多い
保護林の状況		トドマツ、アカエゾマツ実生がコケ上に見られるが、幼木まで成長しているものは見られない。	アカエゾマツが高木層に発達し、亜高木層以下はほとんどない。林床のコケ上にアカエゾマツ、トドマツ等の実生、稚樹が多く見られる。	トドマツの実生、稚樹は豊富に見られるが、アカエゾマツの天然更新は見られない。	風倒によるギャップが目立つ。林床は広範囲でトドマツの稚樹、幼木が見られる。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 ー:特になし		確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

プロット24-1

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			風倒木がわずかにみられるが、影響は軽微。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

プロット24-2

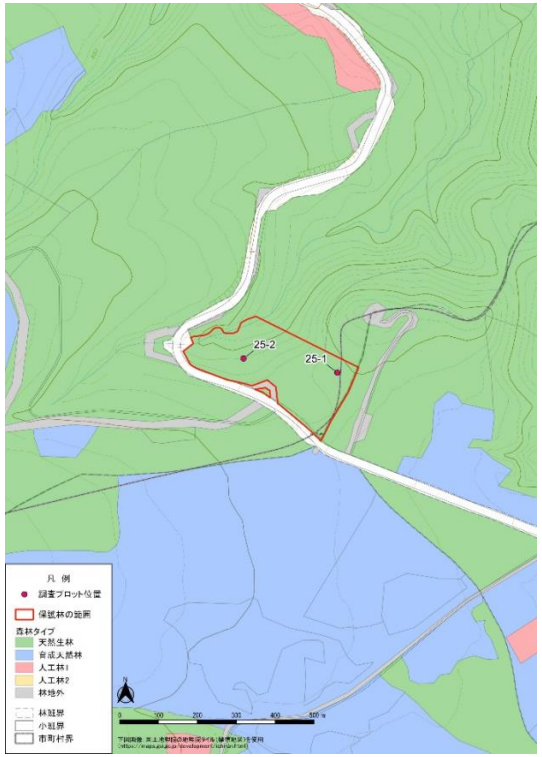
項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			風倒によるギャップがみられるが、影響は少ない。
磁西方向	写真なし		風倒によるギャップがみられるが、影響は少ない。
天頂			大きな変化はない。

確認された影響[特になし]
・高木層にアカエゾマツが発達し、亜高木層以下にはほとんど樹木がみられなかった。
・風倒木で生じたギャップや林床のコケ上などにトドマツおよびアカエゾマツの実生と稚樹が複数みられ、良好な林分といえる。
・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

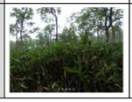
アカエゾマツの実生

25 斜里ダケカンバ遺伝資源希少個体群保護林

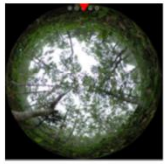
実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(2箇所)



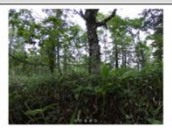
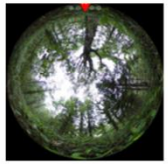
ダケカンバ大径木

保護林名		斜里ダケカンバ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		ダケカンバ			
プロットNo.		25-1		25-2	
旧No.		31601-1		31601-2	
調査日		2018/8/8	2023/6/22	2018/8/8	2023/6/22
プロット情報	標高	502m		472m	
	斜面方位、傾斜(平均)	SW5°		NW10°	
	局所地形	平坦尾根		山腹平衡斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種	ダケカンバ	ダケカンバ、ミズナラ	トドマツ、エゾマツ	エゾマツ、トドマツ
	【高】樹高	20m以上	9～17m	20m以上	20～28m
	【高】植被率	-	70%	-	80%
	【高】DBH	20～30cm	18～57cm	30cm以上	30～90cm
	【亜】主要構成樹種	ダケカンバ、ミズナラ	ミズナラ	ナナカマド、トドマツ	ダケカンバ、ナナカマド
	【亜】樹高	5～10m	7m	10m以上	8～16m
	【亜】植被率	-	10%	-	50%
	【亜】DBH	10～20cm	10cm	10～20cm	10～20cm
	【低】主要構成樹種	トドマツ	トドマツ	エゾイタヤ、トドマツ	トドマツ
	【低】樹高	1～5m	2m	1～5m	2m
	【低】植被率	-	5%	-	1%
	【低】DBH	5cm未満	5cm	5cm未満	5m
	最大樹高樹種 樹高	- -	ダケカンバ 17.2m	- -	エゾマツ 28.0m
	最大直径樹種 直径	- -	ダケカンバ 56.8cm	- -	ダケカンバ 90.0cm
	保護対象種の本数割合	50～80%	80%以上	20%以下	20～50%
	気象害	-	-	-	-
	病虫害	-	-	-	-
	気象害等のコメント	-	-	-	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	-	-	角研ぎ	-
	その他痕跡	-	-	-	-
	痕跡の程度	-	-	-	-
	痕跡のコメント	-	-	角研ぎ痕は古い	-
林床植生	主要構成種 (主体は80%以上)	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体
	優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
	植被率 植生高	密生 1.5m以上	100% 0.1～1.7m	密生 1.5m以上	100% 0.1～1.8m
	天然更新状況	保護対象種の低木の天然更新が少ない、見られない	保護対象種：なし 保護対象種以外：少ない	保護対象種の低木の天然更新が少ない、見られない	保護対象種：なし 保護対象種以外：少ない
保護林の状況		ダケカンバが優先しているが、林床はササが密生しており、天然更新は見られない。	林床はササが密生しており、ダケカンバの天然更新は見られないが、立木の生育は健全である。	トドマツ、エゾイタヤ、ミズナラなどが多い。	大径木が多く、立木は健全である。林床はササが密生しており、ダケカンバの天然更新は見られないが、亜高木層は旺盛である。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然撹乱 カ:その他 －:特になし		確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

プロット25-1

項目	H30	R5	比較結果等
北方向			大きな変化はない。
東方向	写真なし		大きな変化はない。
南方向			大きな変化はない。
西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

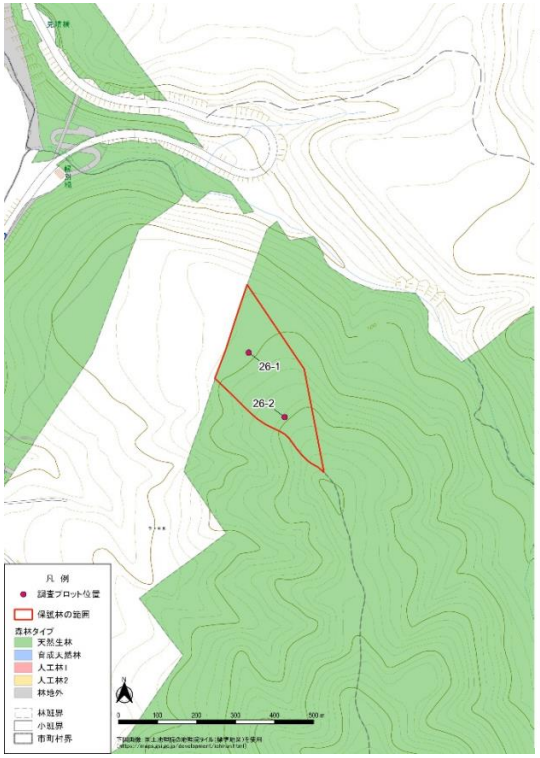
プロット25-2

項目	H30	R5	比較結果等
北方向			大きな変化はない。
東方向	写真なし		大きな変化はない。
南方向			大きな変化はない。
西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

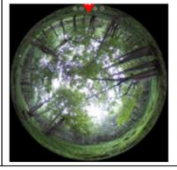
確認された影響[特になし]
・林況に大きな変化はみられなかった。
・大径木もみられるなど立木は健全な状態であった。
・林床の天然更新はササが密生しているため稚樹がほとんどみられないが、亜高木層のダケカンバの生育は健全であり、今後の生長は期待できる。
・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

26 宇登呂キハダ遺伝資源希少個体群保護林

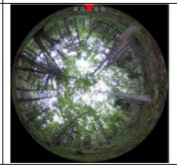
実施した現地調査 | 保護林森林詳細調査(2箇所)



プロット26-1

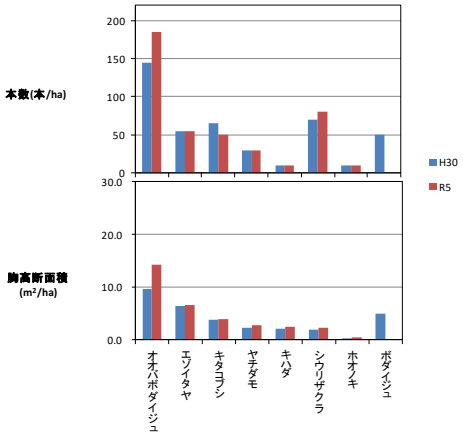
項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		一部風倒が確認されたが、被害というほどではない。
天頂			大きな変化はない。

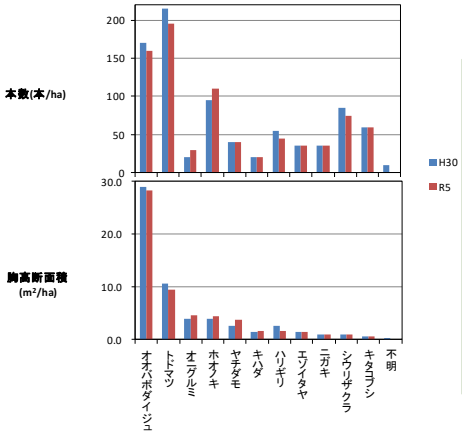
プロット16-2

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

保護林名		宇登呂キハダ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		キハダ			
プロットNo.		26-1		26-2	
旧No.		31602-1		31602-2	
調査日		2018/8/9	2023/8/1	2018/8/9	2023/8/1
プロット情報	標高	200m		168m	
	斜面方位、傾斜(平均)	NW 8°		NW 18°	
	局所地形	山腹平衡斜面		山腹平衡斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ
	【高】樹高	16～22m	17～22m	17～24m	18～27m
	【高】植被率	80%	80%	80%	80%
	【高】DBH	25～77cm	27～78cm	19～85cm	19～85cm
	【亜】主要構成樹種	シウリザクラ、キタコブシ	シウリザクラ、キタコブシ	トドマツ	トドマツ
	【亜】樹高	7～16m	8～16m	8～16m	9～18m
	【亜】植被率	20%	20%	10%	10%
	【亜】DBH	10～24cm	10～25cm	14～20cm	14～20cm
	【低】主要構成樹種	エゾイタヤ、トドマツ	エゾイタヤ	トドマツ、キタコブシ	トドマツ、シウリザクラ
	【低】樹高	3～7m	3～7m	2～6m	2～8m
	【低】植被率	5%	5%	1%	1%
	【低】DBH	3～8cm	3～8cm	2～6cm	2～7cm
	最大樹高樹種 樹高	オオバボダイジュ 22.3m	オオバボダイジュ 22.5m	オオバボダイジュ 24.5m	オニグルミ 27.8m
	最大直径樹種 直径	エゾイタヤ 77.8cm	エゾイタヤ 78.2cm	オオバボダイジュ 82.3cm	オオバボダイジュ 85.0cm
	保護対象種の本数割合	20%以下	20%以下	20%以下	20%以下
	気象害 病虫害	- -	風害(小) -	- -	- -
	気象害等のコメント	-	トドマツ風倒木あり	-	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡 その他痕跡 痕跡の程度	- - -	食、食痕 - 軽微	角研ぎ - 軽微	シカ道、足跡、糞 - 軽微
	痕跡のコメント	-	古いシカのトドマツ剥皮あり	-	シカ食痕は見られない
林床植生	主要構成種 (主体は80%以上)	草本類主体	草本類主体	草本類主体	草本類主体
	優占する植物種	ツタウルシ、オオバヤエムグラ	コバノイラクサ、ツタウルシ	オクノカンスゲ、ツタウルシ	ヒトリシズカ、クルマバソウ
	植被率 植生高	50% -	80% 0.1～0.4m	80% -	70% 0.1～0.5m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種：少ない 保護対象種以外：普通	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種：少ない 保護対象種以外：普通
保護林の状況		キハダは大径木が点在し、天然更新は見られない。	キハダは高木層に少数見られる。キハダ、オオバボダイジュ、ニガキ、ヤチダモ、トドマツ等多種の実生、稚樹が見られる。	キハダは大径木が点在し、天然更新は見られない。	キハダは高木層に少数見られる。キハダ、オオバボダイジュ、ニガキ、エゾイタヤ、ヤチダモ、キタコブシ、トドマツ等多種の実生、稚樹が見られる。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 －:特になし		確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

キハダの稚樹

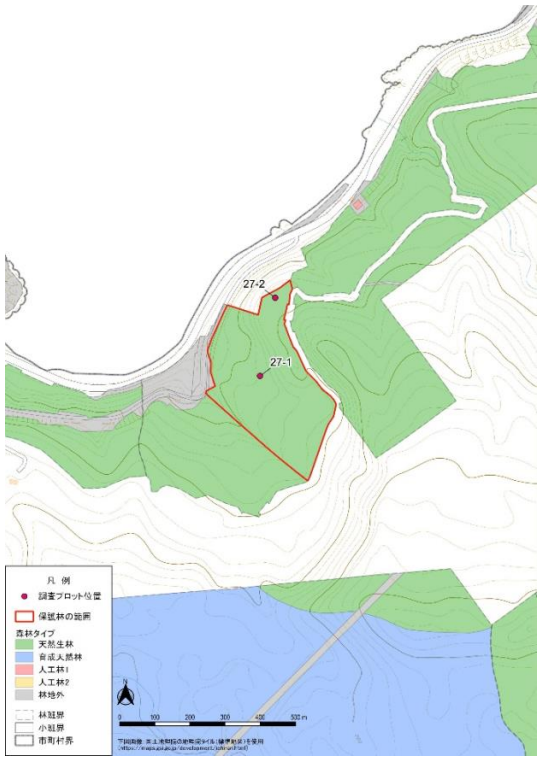




確認された影響[特になし]
・キハダの確認数は少なかったが、立木に関しては健全に生育している。
・キハダの天然更新はやや少なく、留意が必要である。
・更新状況を注視しつつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

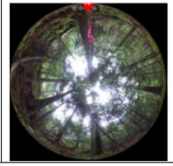
27 宇登呂エゾマツ等遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(2箇所)

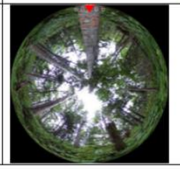


保護林名		宇登呂エゾマツ等遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		エゾマツ、トドマツ			
プロットNo.		27-1		27-2	
IBNo.		31603-1		31603-2	
調査日		2018/8/9	2023/7/4	2018/8/9	2023/7/4
プロット情報	標高	76m		104m	
	斜面方位、傾斜(平均)	SW 11°		NE 5°	
	局所地形	山腹平衡斜面		台地	
林分状況	【高】主要構成樹種	エゾマツ、トドマツ	エゾマツ	ミズナラ、トドマツ	トドマツ、ミズナラ
	【高】樹高	20m以上	22～27m	20m以上	16～26m
	【高】植被率	–	70%	–	70%
	【高】DBH	20～30cm	38～78cm	20～30cm	17～69cm
	【亜】主要構成樹種	トドマツ	トドマツ	トドマツ、シナノキ	トドマツ
	【亜】樹高	5～10m	7～14m	5～10m	9～13m
	【亜】植被率	–	40%	–	10%
	【亜】DBH	10～20cm	7～18cm	10～20cm	14～20cm
	【低】主要構成樹種	トドマツ	トドマツ	トドマツ	トドマツ、キタコブシ
	【低】樹高	1～5m	2～5m	1～5m	2～5m
	【低】植被率	–	10%	–	5%
	【低】DBH	5cm未満	2～6cm	5cm未満	1～7cm
	最大樹高樹種	–	エゾマツ	–	トドマツ
	樹高	–	27.2m	–	25.5m
	最大直径樹種	–	エゾマツ	–	ミズナラ
	直径	–	78.0cm	–	69.1cm
	保護対象種の本数割合	80%以上	50～80%	50～80%	50～80%
	気象害	風害(中)	風害(中)	風害(中)	風害(中)
	病虫害	–	–	–	–
	気象害等のコメント	局所的に風倒木あり	プロット上部に風倒によるギャップあり	局所的に風倒木あり	局所的に風倒木あり
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	足跡、糞	糞、角研ぎ	足跡、糞	シカ道、角研ぎ、食痕
	その他痕跡	–	–	–	ネズミ類(食痕)
	痕跡の程度	–	小	軽微	軽微
	痕跡のコメント	エゾシカの利用が見られるが、被害はない	エゾシカ越冬地として利用している可能性あり	エゾシカの利用が見られるが、被害はない	シカのオシダ食痕あり
林床植生	主要構成種	草本類主体	その他、コケ類	草本類主体	草本類主体
	(主体は80%以上)				
	優占する植物種	オクヤマシダ	オクヤマシダ、コケ類	ミミコウモリ	ミミコウモリ、シラネワラビ
	植被率	疎生または散在	20%	疎生または散在	90%
	植生高	0.5～1.5m	0.1～0.4m	0.5～1.5m	0.1～1.3m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種:普通 保護対象種以外:なし	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種:少ない 保護対象種以外:少ない
保護林の状況		エゾマツ、トドマツの他にアカエゾマツの大径木も見られる。	風穴上に成立した針葉樹林。エゾマツの実生は倒木上に少数、トドマツの天然更新は多く見られる。	低木層にトドマツが多い。	エゾマツはプロット外に1本のみ、トドマツは高木層から低木層まで見られる。シカの影響に注視が必要だが、林分は健全な状態である。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 ー:特になし		確認された影響[オ] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[オ] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[オ] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[アオ] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

プロット27-1

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		一部に風倒木がみられるが、影響は軽微。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

プロット27-2

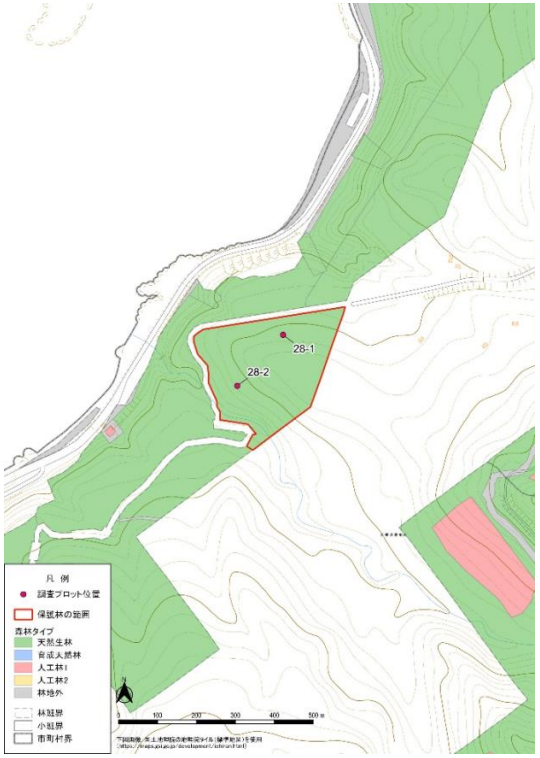
項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			一部に風倒木がみられるが、影響は軽微。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

確認された影響[野生鳥獣]
・本保護林はエゾマツとトドマツの希少個体群の生育地として保護されている森林である。
・局所的に風倒木によるギャップがみられるものの、自然撹乱の範囲であり、天然更新もみられる。
・下層植生のエゾシカ食痕がやや多く、留意が必要である。
・シカによる影響を注視つつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

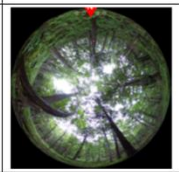
ギャップに生育するトドマツ稚樹

28 宇登呂イチイ遺伝資源希少個体群保護林

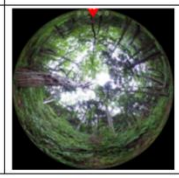
実施した現地調査 | 保護林森林詳細調査(2箇所)



プロット28-1

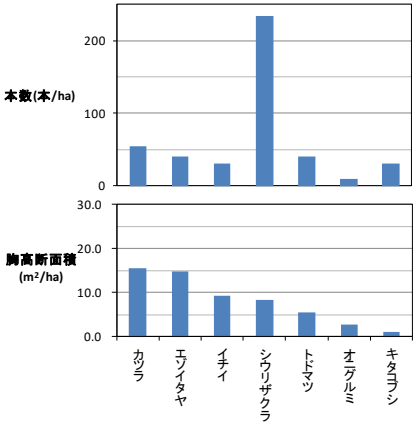
項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

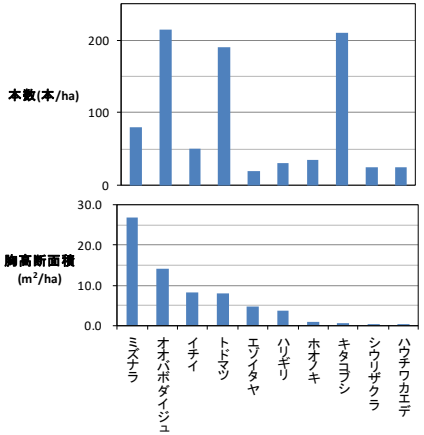
プロット28-2

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			一部風倒木がみられるが、被害というほどではない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

保護林名		宇登呂イチイ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		イチイ			
プロットNo.		28-1		28-2	
旧No.		31604-1		31604-2	
調査日		2018/8/9	2023/8/2	2018/8/9	2023/8/2
プロット情報	標高	106m		106m	
	斜面方位、傾斜(平均)	N 17°		W 27°	
	局所地形	山腹平衡斜面		山腹平衡斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種	カツラ、ハルニレ	カツラ	ミズナラ、オオバボダイジュ	オオバボダイジュ、ミズナラ
	【高】樹高	20m以上	22～29m	20m以上	16～20m
	【高】植被率	70%	80%	80%	80%
	【高】DBH	30cm以上	20～133cm	30cm以上	17～67cm
	【亜】主要構成樹種	キタコブシ、イチイ	シウリザクラ	イチイ、トドマツ	トドマツ
	【亜】樹高	10m以上	11～20m	5～10m	9～15m
	【亜】植被率	50%	60%	10%	10%
	【亜】DBH	10～20cm	9～26cm	10～20cm	14～20cm
	【低】主要構成樹種	シウリザクラ	なし	ミズキ、ハウチワカエデ	トドマツ、キタコブシ
	【低】樹高	1～5m	-	1～5m	2～6m
	【低】植被率	3%	0%	10%	10%
	【低】DBH	5cm未満	-	5cm未満	1～13cm
	最大樹高樹種	-	カツラ	-	オオバボダイジュ
	樹高	-	29.7m	-	20.3m
	最大直径樹種	-	カツラ	-	エゾイタヤ
	直径	-	133.4cm	-	66.8cm
	保護対象種の本数割合	20%以下	20%以下	20%以下	20%以下
	気象害	風害(軽微)	風害(小)	-	風害(軽微)
	病虫害	-	-	-	-
	気象害等のコメント	-	風倒木、枯木の幹折れ少数あり	-	風倒木、枯木の幹折れわずかにあり
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	シカ道、足跡、糞、食痕	糞、食痕	-	シカ道、足跡、糞、食痕
	その他痕跡	-	-	-	-
	痕跡の程度	軽微	小	-	中
	痕跡のコメント	シカのシウリザクラ食痕あり	シカの剥皮わずかにあり	-	シカの剥皮あり
林床植生	主要構成種（主体は80%以上）	草本類主体	草本類主体	草本類主体	草本類主体
	優占する植物種	ツタウルシ、シダ類	ツタウルシ	ツタウルシ	オシダ
	植被率	-	80%	疎生または散在	80%
	植生高	0.5m未満	0.1～0.4m	0.5m未満	0.1～0.5m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種：なし 保護対象種以外：普通	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種：なし 保護対象種以外：普通
保護林の状況		低木層は乏しい。イチイとハルニレに防鹿ネットが巻いてある。	イチイは少数見られやや枯木が多い。林床にはトドマツ、ニガキ、ヤチダモ、オオバボダイジュの稚樹が見られる。	イチイはDBH30cm以上。シカ害は無し。	イチイは枯木が多い。トドマツ、キハダ、オオバボダイジュの稚樹が見られる。
林分等の状況		大きな変化は認められない	シカによる影響あり	大きな変化は認められない	シカによる影響あり
評価・課題等確認された影響		確認された影響[-]	確認された影響[ア]	確認された影響[-]	確認された影響[ア]
ア：野生鳥獣 イ：病虫害 ウ：外来種 エ：温暖化 オ：自然攪乱 カ：その他 ー：特になし		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

シカによる剥皮





確認された影響[野生鳥獣]

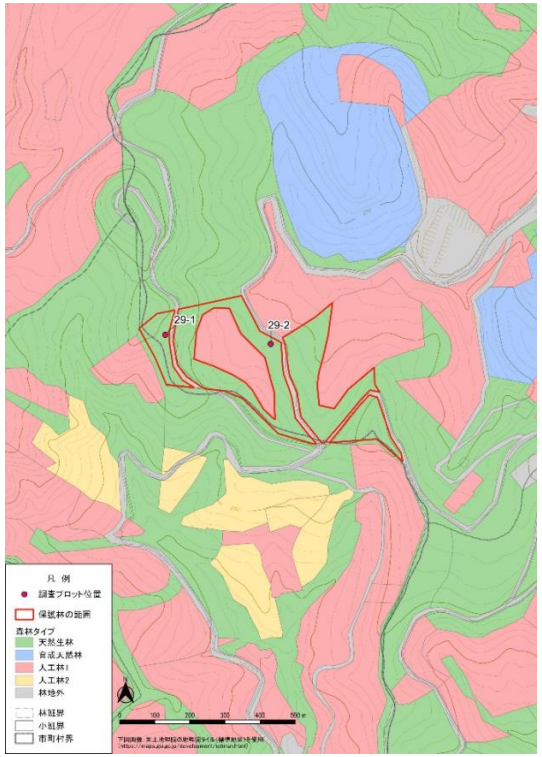
・枯損木が多く確認された。
・特にイチイの枯損が多く、天然更新も確認されなかった。
・シカの痕跡も多く、食害の可能性が高い。
・シカの食害に留意しつつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

3-3.希少個体群保護林 (5/6)

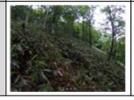
No	保護林ID	保護林名	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・対応(案)
29	31605	網走ハルニレ遺伝資源希少個体群保護林 (11.22ha)	ハルニレ	H30	・森林概況調査 （2箇所）	・両プロットともに林床はササが密生しているが、密度が低い箇所では天然更新が少数みられた。 ・亜高木層以上の立木の生育は健全であった。	5年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
30	31606	青葉アカエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林 (40.69ha)	アカエゾマツ	H30	・森林概況調査 （2箇所）	・立木は健全であった。 ・アカエゾマツの実生と稚樹もみられ天然更新は順調に行われている。	5年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
31	31607	宇登呂ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林 (2.41ha)	ミズナラ	H30	・森林概況調査 （2箇所）	・プロット内の立木は健全であった。 ・ミズナラのほか、多数の樹種の実生、稚樹も見られ、天然更新は順調に行われている。	5年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
32	31608	相生ヤチダモ遺伝資源希少個体群保護林 (2.35ha)	ヤチダモ	H30	・森林概況調査 （2箇所）	・ヤチダモのほか、エゾマツ、トドマツが優占しており、立木は健全であった。 ・ヤチダモ及びその他の樹種の実生や稚樹もみられ、天然更新も順調に行われている。	5年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
33	31609	藻琴山ミズナラ希少個体群保護林 (7.1ha)	ミズナラ	H30	・森林概況調査 （2箇所）	・両プロットともに立木は健全であった。 ・低木層以下ではエゾシカの剥皮によると思われる枯死木が散見され、実生と稚樹はわずかにみられる程度であった。 ・ミズナラの天然更新については留意が必要である。	5年	**確認された影響[野生鳥獣]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

29 網走ハルニレ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(2箇所)



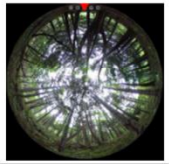
林床の様子

保護林名		網走ハルニレ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		ハルニレ			
プロットNo.		29-1		29-2	
旧No.		31605-1		31605-2	
調査日		2018/8/11	2023/9/26	2018/8/11	2023/9/26
プロット情報	標高	336m		271m	
	斜面方位、傾斜(平均)	SE 26°		NE 12°	
	局所地形	山腹平衡斜面		平坦尾根	
林分状況	【高】主要構成樹種	ハルニレ	ハルニレ	ダケカンバ、シナノキ	シナノキ、ダケカンバ
	【高】樹高	20m以上	16～26m	20m以上	18～24m
	【高】植被率	–	60%	–	80%
	【高】DBH	30cm以上	35～58cm	30cm以上	25～69cm
	【亜】主要構成樹種	シナノキ、ケヤマハンノキ	ハルニレ、エゾイタヤ	トドマツ、シナノキ	トドマツ、ダケカンバ
	【亜】樹高	5～10m	10～16m	5～10m	13～16m
	【亜】植被率	–	20%	–	30%
	【亜】DBH	10～20cm	18～23cm	10～20cm	14～25cm
	【低】主要構成樹種	ハウチワカエデ、エゾイタヤ	エゾイタヤ	なし	シナノキ、シウリザクラ
	【低】樹高	1～5m	2～7m	–	3～7m
	【低】植被率	–	10%	–	10%
	【低】DBH	5cm未満	2～5cm	–	4～5m
	最大樹高樹種	–	ハルニレ	–	シナノキ
	樹高	–	26.2m	–	24.2m
	最大直径樹種	–	ハルニレ	–	シナノキ
	直径	–	57.6cm	–	68.6cm
	保護対象種の本数割合	50～80%	50～80%	ほとんど見られない	20%以下
	気象害	–	–	–	–
	病虫害	–	–	–	–
	気象害等のコメント	–	–	–	–
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	足跡	–	シカ道、足跡、糞	糞、食痕、骨
	その他痕跡	–	クマゲラ(食痕)	–	–
	痕跡の程度	軽微	–	中	小
	痕跡のコメント	–	–	トドマツ低木にシカ角研ぎ痕、ササ食痕あり	シカのササ食痕あり
林床植生	主要構成種（主体は80%以上）	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	各種混在
	優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ、フッキソウ	クマイザサ、フッキソウ
	植被率	密生	60%	密生	60%
	植生高	0.5～1.5m	0.1～0.7m	0.5m未満	0.1～1.0m
	大然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種：なし 保護対象種以外：少ない	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種：なし 保護対象種以外：少ない
保護林の状況		ハルニレは多いが、実生は見られない。トドマツの追い箇所もあり、一部で混交している。	ハルニレは大木も見られ個体数も多いが、天然更新はプロット外の萌芽のみ。その他の樹種の天然更新は少数見られる。	ハルニレはほとんど見られない。	ハルニレの個体数は少ない。ササの薄い箇所ではその他の樹木の実生、稚樹が見られる。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア：野生鳥獣　イ：病虫害　ウ：外来種 エ：温暖化　オ：自然攪乱　カ：その他 －：特になし		確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

プロット29-1

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

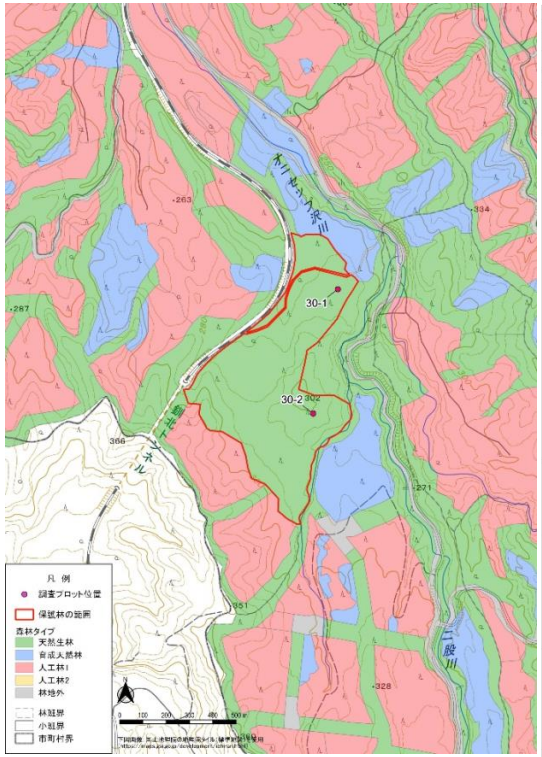
プロット29-2

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

確認された影響[特になし]
・プロット29-1はハルニレが優占し概ね健全であった。
プロット29-2はシナノキとダケカンバが優占し、ハルニレの個体数は少なかった。
・両プロットともに林床はササが密生しているが、密度が低い箇所では天然更新が少数みられた。
・亜高木層以上の立木の生育は健全であり、今後の更新は期待できるといえる。
・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

30 青葉アカエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林

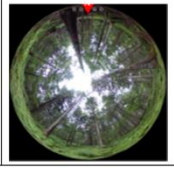
実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(2箇所)



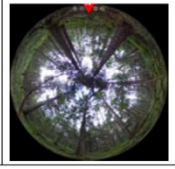
アカエゾマツ稚樹

保護林名		青葉アカエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		アカエゾマツ			
プロットNo.		30-1		30-2	
旧No.		31606-1		31606-2	
調査日		2018/8/22	2023/7/10	2018/8/22	2023/7/10
プロット情報	標高	293m		314m	
	斜面方位、傾斜(平均)	0°		0°	
	局所地形	平坦尾根		平坦尾根	
林分状況	【高】主要構成樹種	トドマツ、アカエゾマツ	アカエゾマツ、エゾマツ	アカエゾマツ、トドマツ	アカエゾマツ、トドマツ
	【高】樹高	10～20m	22～28m	20m以上	20～27m
	【高】植被率	–	80%	–	80%
	【高】DBH	30cm以上	25～54cm	30cm以上	25～48cm
	【亜】主要構成樹種	トドマツ	トドマツ、アカエゾマツ	トドマツ、ハウチワカエデ	トドマツ
	【亜】樹高	5～10m	10～20m	5～10m	12～18m
	【亜】植被率	–	20%	–	40%
	【亜】DBH	10～20cm	13～26cm	10～20cm	10～28cm
	【低】主要構成樹種	エゾイタヤ、トドマツ	トドマツ、オガラバナ	トドマツ、ハウチワカエデ	トドマツ、ハウチワカエデ
	【低】樹高	1～5m	2～7m	1～5m	2～10m
	【低】植被率	–	60%	–	40%
	【低】DBH	5cm未満	1～5cm	5cm未満	1～6m
	最大樹高樹種	–	アカエゾマツ	–	アカエゾマツ
	樹高	–	28.0m	–	27.0m
	最大直径樹種	–	アカエゾマツ	–	アカエゾマツ
	直径	–	55.0cm	–	48.0cm
	保護対象種の本数割合	20%以下	20～50%	ほとんど見られない	50～80%
	気象害	風害(小)	風害(軽微)	–	風害(軽微)
	病虫害	–	–	–	–
	気象害等のコメント	風害による幹折れあり	–	–	–
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	シカ道、足跡	シカ道、角研ぎ、食痕	食痕	食痕、目視
	その他痕跡	–	–	–	–
	痕跡の程度	大	中	軽微	軽微
	痕跡のコメント	シカのヤマドリゼンマイ食痕多数あり	シカのヤマドリゼンマイ食痕複数あり	シカのヤマドリゼンマイ食痕わずかにあり	シカのヤマドリゼンマイ食痕わずかにあり
林床植生	主要構成種（主体は80%以上）	草本類主体	草本類主体	草本類主体	草本類主体
	優占する植物種	シラネワラビ	シラネワラビ	シラネワラビ	シラネワラビ
	植被率	–	80%	–	90%
	植生高	–	0.1～1.0m	–	0.1～1.0m
	大然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種：少ない 保護対象種以外：普通	保護対象種の実生の天然更新が見られる	保護対象種：普通 保護対象種以外：普通
保護林の状況		天然更新はトドマツのみ見られる。	アカエゾマツは実生、稚樹、低木も見られ天然更新は順調に行われている。	アカエゾマツの天然更新はごく少ない。トドマツの稚樹は多く見られる。	アカエゾマツは実生、稚樹、低木も見られ天然更新は順調に行われている。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 －:特になし		確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

プロット30-1

項目	H30	R5	比較結果等
北方向			大きな変化はない。
東方向	写真なし		大きな変化はない。
南方向			大きな変化はない。
西方向	写真なし		古い風倒木がみられるが、影響は軽微。
天頂			大きな変化はない。

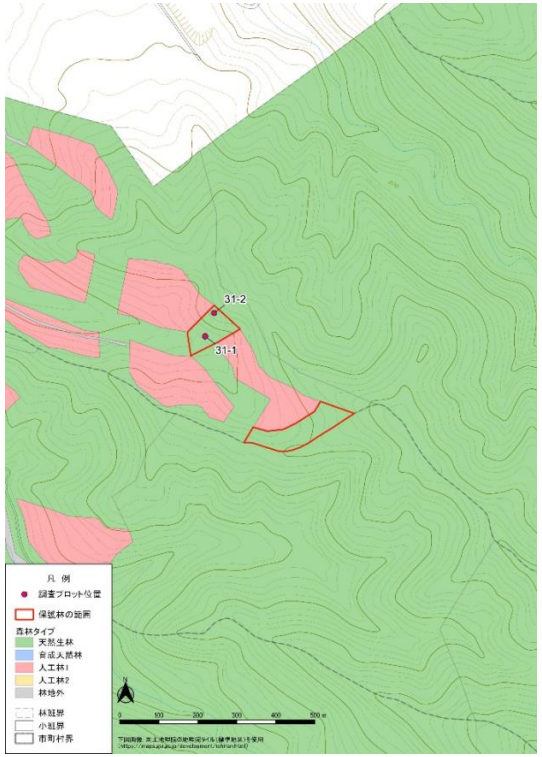
プロット30-2

項目	H30	R5	比較結果等
北方向			大きな変化はない。
東方向	写真なし		大きな変化はない。
南方向			大きな変化はない。
西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

確認された影響[特になし]
・古い風倒木がわずかにみられるものの、立木は健全であった。
・アカエゾマツの実生と稚樹もみられ天然更新は順調に行われている。
・エゾシカによる下層植生の食痕が散見されるが、主にヤマドリゼンマイを選択的に摂食しており、現状では保護対象種への影響はみられない。
・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

31 宇登呂ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(2箇所)



ミズナラ稚樹

保護林名		宇登呂ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		ミズナラ			
プロットNo.		31-1		31-2	
旧No.		31605-1		31605-2	
調査日		2014/10/1	2023/7/31	2014/10/1	2023/7/31
プロット情報	標高	298m		326m	
	斜面方位、傾斜(平均)	SW 23°		SW 32°	
	局所地形	山腹平衡斜面		山腹平衡斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種	ミズナラ、トドマツ	ミズナラ、トドマツ	ミズナラ、トドマツ	ミズナラ、トドマツ
	【高】樹高	10～20m	15～18m	10m未満	5～11m
	【高】植被率	–	70%	–	80%
	【高】DBH	30cm未満	30～88cm	20cm未満	7～15cm
	【亜】主要構成樹種	トドマツ	ハウチワカエデ、トドマツ	なし	なし
	【亜】樹高	5～10m	5～10m	–	–
	【亜】植被率	–	30%	–	0%
	【亜】DBH	10～20cm	9～15cm	–	–
	【低】主要構成樹種	ミズナラ、トドマツ	トドマツ	トドマツ	トドマツ
	【低】樹高	1～5m	2～3m	2～3m	2～3m
	【低】植被率	–	20%	–	40%
	【低】DBH	1～5cm	1～5cm	3～5cm	3～5cm
	最大樹高樹種 樹高	トドマツ 18.8m	トドマツ 18.2m	エゾイタヤ 9.5m	トドマツ 11.0m
	最大直径樹種 直径	ミズナラ 83.7cm	ミズナラ 88.2cm	トドマツ 17.7cm	トドマツ 18.0cm
	保護対象種の本数割合	50～80%	20～50%	20～50%	50～80%
	気象害	風害(軽微)	風害(中)	–	–
	病虫害	–	–	–	–
	気象害等のコメント	–	トドマツ幹折れ、風倒あり	–	–
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡 その他痕跡 痕跡の程度	食痕 クマゲラ(ねぐら木) 軽微	糞 – 軽微	– クマゲラ(食痕) 軽微	糞 – 軽微
	痕跡のコメント	–	–	–	–
林床植生	主要構成種 (主体は80%以上)	草本類主体	草本類主体	ササ類主体	各種混在
	優占する植物種	ゴンゲンスゲ、トドマツ	スゲ属、ツタウルシ	クマイザサ、フッキソウ	トドマツ、ツルアジサイ
	植被率 植生高	80% –	70% 0.1～1.0m	10% –	20% 0.1～0.3m
	大然更新状況	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種：普通 保護対象種以外：多い	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種：普通 保護対象種以外：少ない
保護林の状況		–	風倒によるギャップが見られるが、立木の生育は健全である。保護対象種のミズナラは実生、稚樹が多数見られ、天然更新は順調に行われている。	–	林齢が若いため大径木は無く、全体的に密生している。ミズナラは実生、稚樹が見られ、天然更新は順調に行われている。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 －:特になし		確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

プロット31-1

項目	H26	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向			風倒木が見られる。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向			大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

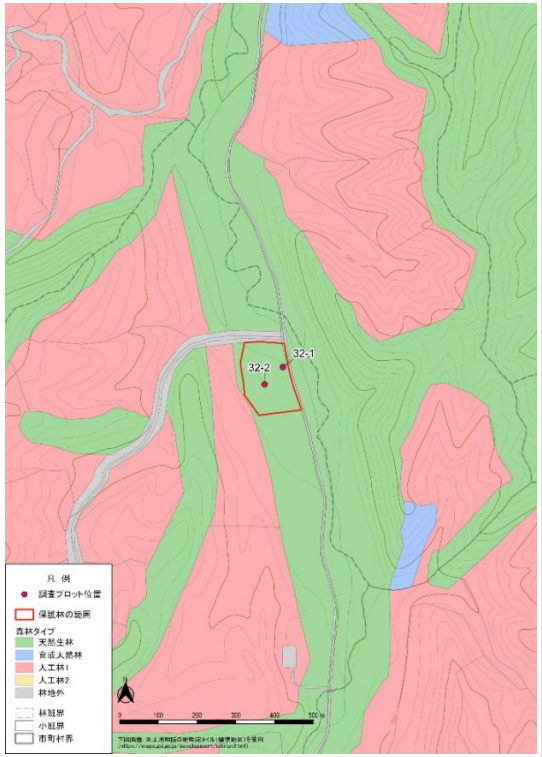
プロット31-2

項目	H26	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向			大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向			大きな変化はない。
天頂			植被率の増加が見られる。

確認された影響[特になし]
・プロット内の立木は健全であった。
・ミズナラのほか、多数の樹種の実生、稚樹も見られ、天然更新は順調に行われている。
・トドマツの幹折れや風倒によるギャップが中程度みられるものの自然撹乱の範囲であり、林分への影響は少ないと考えられる。
・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

32 相生ヤチダモ遺伝資源希少個体群保護林

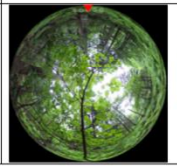
実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(2箇所)



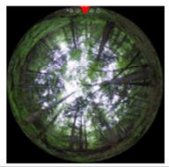
亜高木層の様子（ヤチダモ、トドマツ等）

保護林名		相生ヤチダモ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		ヤチダモ			
プロットNo.		32-1		32-2	
旧No.		31608-1		31608-2	
調査日		2018/6/27	2023/7/24	2018/6/27	2023/7/24
プロット情報	標高	298m		334m	
	斜面方位、傾斜(平均)	0°		NE 2°	
	局所地形	湿地		湿地	
林分状況	【高】主要構成樹種	ヤチダモ、エゾマツ	ヤチダモ、エゾマツ	ヤチダモ、トドマツ	ヤチダモ、エゾマツ
	【高】樹高	20m以上	19～28m	20m以上	20～28m
	【高】植被率	–	80%	–	80%
	【高】DBH	30cm以上	16～42cm	30cm以上	18～40cm
	【亜】主要構成樹種	ヤチダモ、トドマツ	ヤチダモ、トドマツ	ヤチダモ、エゾマツ	ヤチダモ、エゾマツ
	【亜】樹高	10m以上	10～17m	10m以上	9～18m
	【亜】植被率	–	40%	–	40%
	【亜】DBH	10～20cm	6～18cm	10～20cm	7～20cm
	【低】主要構成樹種	トドマツ	トドマツ、ハシドイ	トドマツ	トドマツ、エゾマツ
	【低】樹高	5m以上	2～8m	5m以上	3～8m
	【低】植被率	–	40%	–	30%
	【低】DBH	5～10cm	2～6cm	5～10cm	2～7cm
	最大樹高樹種	–	ヤチダモ	–	トドマツ
	樹高	–	28.0m	–	11.0m
	最大直径樹種	–	エゾマツ	–	トドマツ
	直径	–	42.0cm	–	18.0cm
	保護対象種の本数割合	20～50%	50～80%	20～50%	50～80%
	気象害	風害(軽微)	風害(軽微)	風害(小)	風害(軽微)
	病虫害	–	–	–	–
	気象害等のコメント	風倒木はエゾマツ、トドマツで古い	–	風倒木はエゾマツ、トドマツで古い	–
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	食痕	シカ道、糞、角研ぎ、食痕	食痕	足跡、角研ぎ、食痕
	その他痕跡	–	–	–	–
	痕跡の程度	軽微	中	軽微	小
	痕跡のコメント	シカのシダ類食痕あり	シカのクサソテツ食痕等多い	–	シカのクサソテツ食痕あり
林床植生	主要構成種（主体は80%以上）	草本類主体	草本類主体	ササ類主体	草本類主体
	優占する植物種	クサソテツ	クサソテツ、スゲ属	クマイザサ、フッキソウ	スゲ属、クサソテツ
	植被率	疎生または散在	90%	疎生または散在	90%
	植生高	0.5m未満	0.1～0.6m	0.5m未満	0.1～0.5m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種：少ない 保護対象種以外：多い	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種：普通 保護対象種以外：普通
保護林の状況		トドマツの低木、実生の天然更新が見られる。	ヤチダモの生育は旺盛で、天然更新は実生が少数見られる。	ヤチダモの天然更新が盛んである。	ヤチダモの生育は旺盛で、天然更新は実生が少数見られる。エゾマツ、トドマツの稚樹、低木も多い。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア：野生鳥獣　イ：病虫害　ウ：外来種 エ：温暖化　オ：自然攪乱　カ：その他 －：特になし		確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

プロット32-1

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

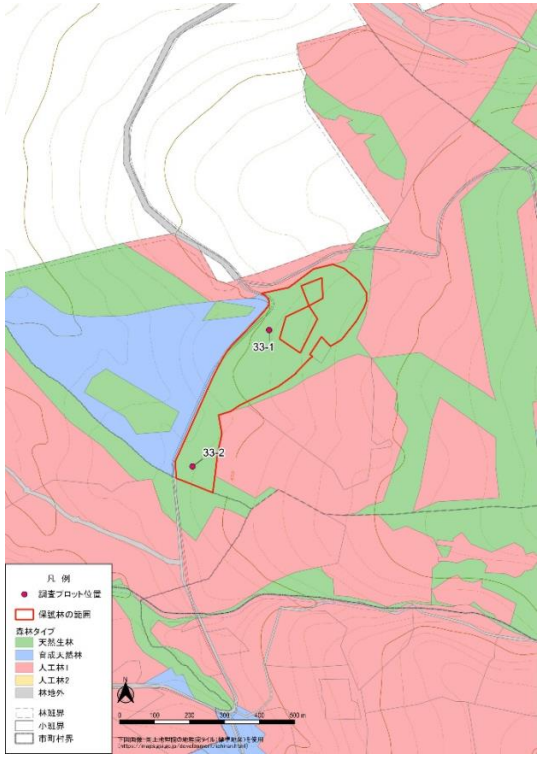
プロット32-2

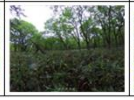
項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

確認された影響[特になし]
・ヤチダモのほか、エゾマツ、トドマツが優占しており、立木は健全であった。
・ヤチダモ及びその他の樹種の実生や稚樹もみられ、天然更新も順調に行われている。
・エゾシカによる下層植生の食痕が散見されるが、主にクサソテツを摂食しており、現状では保護対象種への影響はみられなかった。
・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

33 藻琴山ミズナラ希少個体群保護林

実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(2箇所)



保護林名		藻琴山ミズナラ希少個体群保護林			
保護対象種		ミズナラ			
プロットNo.		33-1		33-2	
旧No.		31609-1		31609-2	
調査日		2018/6/27	2023/8/8	2018/6/27	2023/8/8
プロット情報	標高	467m		448m	
	斜面方位、傾斜(平均)	NW 16°		NW 7°	
	局所地形	山腹平衡斜面		山腹平衡斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種	ミズナラ	ミズナラ	ミズナラ	ミズナラ
	【高】樹高	10～20m	19～27m	10～20m	20～29m
	【高】植被率	–	90%	80%	70%
	【高】DBH	20～30cm	17～41cm	20～30cm	18～45cm
	【亜】主要構成樹種	トドマツ	ミズナラ	トドマツ	ダケカンバ
	【亜】樹高	5～10m	10～17m	5～10m	14～20m
	【亜】植被率	–	20%	10%	20%
	【亜】DBH	10cm未満	6～15cm	10cm未満	13～26cm
	【低】主要構成樹種	トドマツ	ミズナラ	トドマツ、エゾマツ	イヌエンジュ
	【低】樹高	1～5m	2～7m	1～5m	3～9m
	【低】植被率	–	10%	10%	30%
	【低】DBH	5cm未満	2～4cm	5cm未満	3～8cm
	最大樹高樹種	–	ミズナラ	–	ミズナラ
	樹高	–	27.0m	–	29.0m
	最大直径樹種	–	ミズナラ	–	ミズナラ
	直径	–	41.0cm	–	45.0cm
	保護対象種の本数割合	80%以上	80%以上	80%以上	50～80%
	気象害	–	–	風害(小)	風害(小)
	病虫害	–	–	–	–
	気象害等のコメント	–	–	トドマツ、エゾマツに根返りあり	風倒によるギャップあり
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	–	角研ぎ、食痕	食痕	食痕
	その他痕跡	–	–	–	–
	痕跡の程度	–	小	軽微	小
	痕跡のコメント	–	シカのササ、頂芽食痕あり	シカのナナカマド食痕あり	シカ剥皮による枯死あり
林床植生	主要構成種（主体は80%以上）	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体
	優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
	植被率	密生	100%	密生	100%
	植生高	0.5～1.5m	0.1～1.4m	0.5～1.5m	0.1～1.4m
	大然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種：少ない 保護対象種以外：なし	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種：少ない 保護対象種以外：少ない
保護林の状況		ミズナラのほぼ一斉林だが、トドマツも亜高木、低木層に少数見られる。	ミズナラの純林。立木の生育は健全だが、低木、幼木が少なく枯死木も見られる。	わずかにエゾマツ、トドマツが混生する。実生はごく少ない。	ミズナラ主体の針広混交林。林床はササが密生するが、ミズナラ、ハリギリの実生が少数見られる。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア：野生鳥獣　イ：病虫害　ウ：外来種 エ：温暖化　オ：自然攪乱　カ：その他 －：特になし		確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

プロット33-1

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

プロット33-2

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			風倒木がみられるが、影響は少ない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

確認された影響[野生鳥獣]
・両プロットともに立木は健全であった。
・低木層以下ではエゾシカの剥皮によると思われる枯死木が散見され、実生と稚樹はわずかにみられる程度であった。
・概ね健全な林分であるが、ミズナラの天然更新については留意が必要である。
・シカによる影響を注視つつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

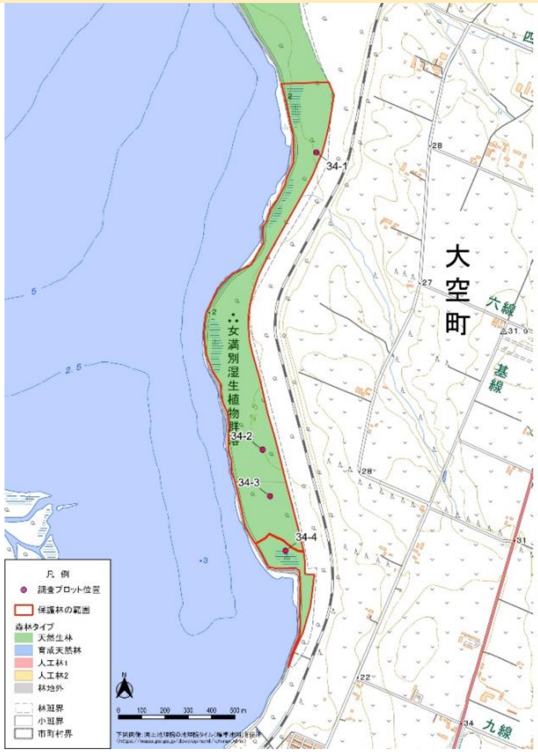
ミズナラ低木の立ち枯れ(プロット33-2)

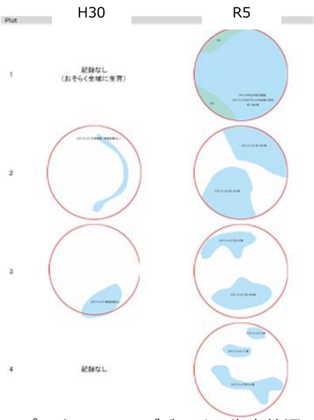
3-3.希少個体群保護林 (6/6)

No	保護林ID	保護林名	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・対応(案)
34	31610	女満別湿性植生希少個体群保護林 (38.19ha)	湿性植生	H30	・森林詳細調査（4箇所） ・動物調査（鳥類）（4箇所）	・大きな変化はなく天然更新も確認された。プロットによっては一部ハムシによる食害がみられたが、影響は小さいと考えられる。 ・ミズバショウの生育は良好であった。 ・鳥類調査ではタンチョウなどのほか、オジロワシの営巣が確認された。	5年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
35	31611	美咲地区海岸砂丘林希少個体群保護林 (41.09ha)	ミズナラを主体とする広葉樹	H30	・森林概況調査（2箇所）	・大きな変化はなく、天然更新もみられ、非常に良好な林分であった。	5年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
36	31612	木禽岳アカエゾマツ希少個体群保護林 (108.59ha)	アカエゾマツ	H30	・森林概況調査（2箇所）	・両プロットともに立木は健全であった。 ・保護林内全域においてエゾシカの痕跡が多く確認された。 ・林内にはエゾノチチコグサなどの希少種も多く、アカエゾマツの更新にも影響が考えられるのでシカの食害には留意が必要である。	5年	**確認された影響[野生鳥獣]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
37	31613	浜小清水ヤチダモ等希少個体群保護林 (57.28ha)	ヤチダモを主体とする広葉樹	H30	・森林概況調査（2箇所）	・天然更新もみられ、非常に良好な林分であった。	5年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

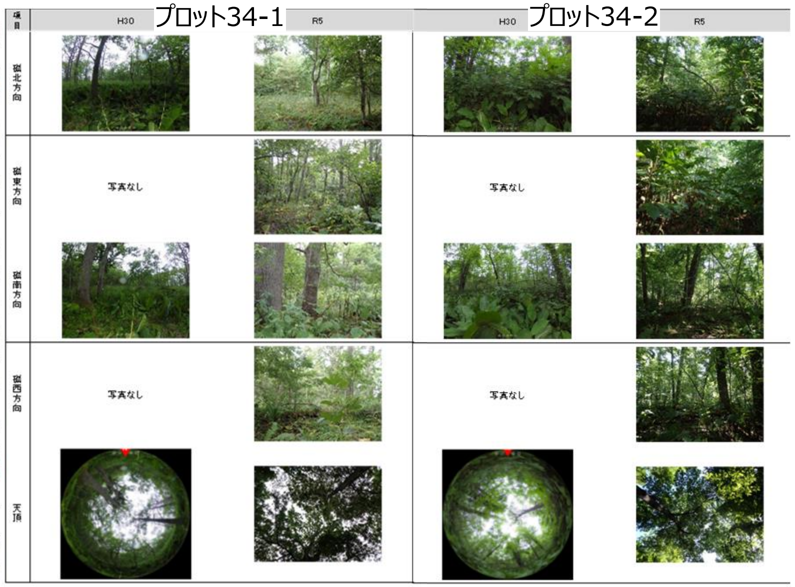
34 女満別湿性植生希少個体群保護林

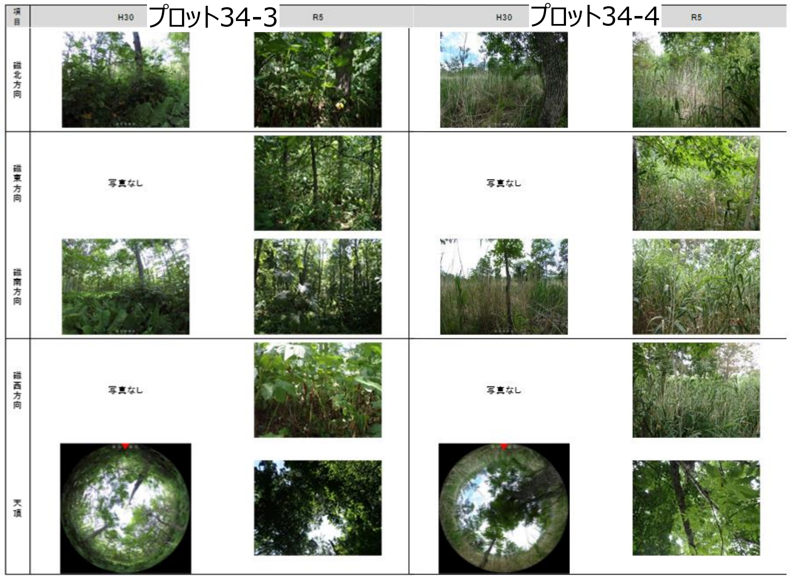
実施した現地調査	保護林森林詳細調査(4箇所)、動物調査(鳥類)(4箇所)

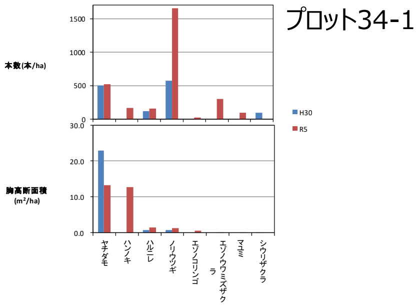


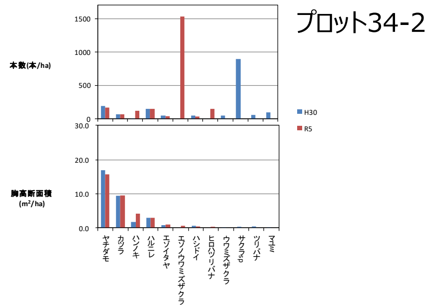


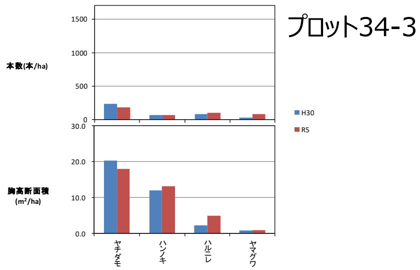
プロットにおけるミズバショウの生育状況

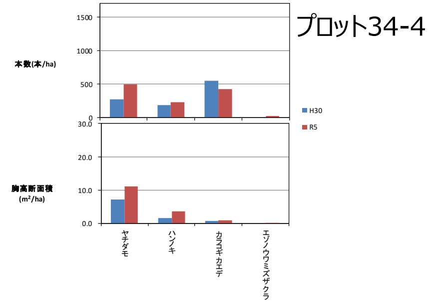












保護林名		女満別湿生植生希少個体群保護林			
プロットNo.		34-1		34-2	
旧No.		31610-1		31610-2	
調査日		2018/6/28	2023/8/16	2018/6/28	2023/8/15
プロット情報	標高	19m		17m	
	斜面方位、傾斜(平均)	0°		0°	
	局所地形	平坦地		平坦地	
林分状況	【高】主要構成樹種	ヤチダモ	ヤチダモ、ハンノキ	ヤチダモ、カツラ	ヤチダモ、ハンノキ
	【高】樹高	18~29m	18~27m	17~30m	20~33m
	【高】植被率	80%	80%	90%	90%
	【高】DBH	30~74cm	16~72cm	30~73cm	26~74cm
	【亜】主要構成樹種	ヤチダモ、ハルニレ	ヤチダモ	ハルニレ	ヤチダモ、ハルニレ
	【亜】樹高	7~16m	8~14m	11~16m	7~15m
	【亜】植被率	40%	50%	30%	30%
	【亜】DBH	8~20cm	8~21cm	18~30cm	18~31cm
	【低】主要構成樹種	ノリウツギ	ノリウツギ	ハシドイ	エゾノウワミズザクラ
	【低】樹高	2~8m	2~8m	1~5m	2~7m
	【低】植被率	40%	40%	30%	40%
	【低】DBH	2~9cm	2~9cm	7~14cm	1~11cm
	最大樹高樹種	ヤチダモ	ヤチダモ	ヤチダモ	ヤチダモ
	樹高	28.9m	26.9m	29.7m	33.0m
	最大直径樹種	ヤチダモ	ヤチダモ	ヤチダモ	ヤチダモ
	直径	74.3cm	75.6cm	73.3cm	74.7cm
	気象害	-	-	-	-
	病虫害	-	-	-	-
	気象害等のコメント	-	-	-	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	-	-	-	-
	その他痕跡	-	-	-	-
	痕跡の程度	-	-	-	-
	痕跡のコメント	-	-	-	-
林床植生	主要構成種（主体は80%以上）	草本類主体	草本類主体	草本類主体	草本類主体
	優占する植物種	ミズバショウ	ミゾソバ、ミズバショウ	ミズバショウ	オオアマドコロ
	植被率	80%	70%	80%	80%
	植生高	-	0.1~0.8m	-	0.1~1.0m
	天然更新状況	-	多い	-	多い
保護林の状況		-	林床にはヤチダモの実生が多数見られる。	-	林床にはヤチダモの実生が多数見られる。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア：野生鳥獣 イ：病虫害 ウ：外来種 エ：温暖化 オ：自然攪乱 カ：その他 ー：特になし		確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

保護林名		女満別湿生植生希少個体群保護林			
プロットNo.		34-3		34-4	
旧No.		31610-4		31610-3	
調査日		2018/6/29	2023/8/15	2018/6/29	2023/8/3
プロット情報	標高	13m		18m	
	斜面方位、傾斜(平均)	0°		0°	
	局所地形	平坦地		平坦地	
林分状況	【高】主要構成樹種	ヤチダモ、ハルニレ	ヤチダモ	ヤチダモ、ハンノキ	ヤチダモ、ハンノキ
	【高】樹高	17~30m	16~33m	8~11m	11~16m
	【高】植被率	80%	80%	30%	30%
	【高】DBH	30~74cm	19~77cm	21~37cm	18~38cm
	【亜】主要構成樹種	ヤチダモ、ハルニレ	ヤチダモ、ハンノキ	ヤチダモ、ハンノキ	ヤチダモ、ハンノキ
	【亜】樹高	8~16m	8~16m	6~8m	7~10m
	【亜】植被率	50%	60%	50%	50%
	【亜】DBH	18~28cm	18~30cm	5~8cm	5~8cm
	【低】主要構成樹種	なし	なし	ハンノキ、カラコギカエデ	カラコギカエデ、ヤチダモ
	【低】樹高	-	-	2~4m	3~7m
	【低】植被率	0%	0%	20%	30%
	【低】DBH	-	-	1~8cm	2~12cm
	最大樹高樹種	ヤチダモ	ヤチダモ	ヤチダモ	ヤチダモ
	樹高	29.6m	33.4m	10.3m	16.1m
	最大直径樹種	ヤチダモ	ヤチダモ	ヤチダモ	ヤチダモ
	直径	73.9cm	77.4cm	37.5cm	38.6cm
	気象害	-	-	-	-
	病虫害	-	-	-	ハムシ(食痕)
	気象害等のコメント	-	-	-	ハンノキの葉にハムシ食痕あり
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	-	-	-	-
	その他痕跡	-	-	-	-
	痕跡の程度	-	-	-	-
	痕跡のコメント	-	-	-	-
林床植生	主要構成種（主体は80%以上）	草本類主体	草本類主体	草本類主体	草本類主体
	優占する植物種	ミズバショウ、カサスゲ	オニシモツケ	ヨシ	ヨシ
	植被率	80%	70%	80%	80%
	植生高	-	0.1~1.5m	-	0.1~1.8m
	天然更新状況	-	普通	0	なし
保護林の状況		-	高木が多く、低木層は乏しい。林床にはヤチダモ実生が少数見られる。	-	他の地点より林齢が若く、ヤチダモは各階層で発達している。林床はヨシ原で、天然更新は見られない。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア：野生鳥獣 イ：病虫害 ウ：外来種 エ：温暖化 オ：自然攪乱 カ：その他 ー：特になし		確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

34 女満別湿性植生希少個体群保護林

実施した現地調査	保護林森林詳細調査(4箇所)、動物調査(鳥類)(4箇所)

確認された鳥類一覧

No.	目名	科名	和名	学名	重要種選定基準			
					1	2	3	4
1	カモ	カモ	オシドリ	*Aix galericulata*			DD	Nt
2	ハト	ハト	キジバト	*Streptopelia orientalis*				
3	希少種情報のため非公表							
4	カッコウ	カッコウ	ツツドリ	*Cuculus optatus*				
5			カッコウ	*Cuculus canorus*				
6	タカ	タカ	トビ	*Milvus migrans*				
7	希少種情報のため非公表							
8	キツツキ	キツツキ	コゲラ	*Dendrocopos kizuki*				
9			アカゲラ	*Dendrocopos major*				
10	スズメ	カラス	ハシボソガラス	*Corvus corone*				
11			ハシブトガラス	*Corvus macrorhynchos*				
12		シジュウカラ	シジュウカラ	*Parus minor*				
13		ヒヨドリ	ヒヨドリ	*Hypsipetes amaurotis*				
14		ウグイス	ウグイス	*Cettia diphone*				
15		エナガ	エナガ	*Aegithalos caudatus*				
16		ムシクイ	オオムシクイ	*Phylloscopus examinandus*			DD	
17			センダイムシクイ	*Phylloscopus coronatus*				
18		ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	*Sitta europaea*				
19		ムクドリ	ムクドリ	*Spodiopsar cineraceus*				
20		ヒタキ	クロツグミ	*Turdus cardis*				
21			キビタキ	*Ficedula narcissina*				
22		スズメ	ニュウナイスズメ	*Passer rutilans*				
23		アトリ	ベニマシコ	*Uragus sibiricus*				
24		ホオジロ	アオジ	*Emberiza spodocephala*				
計	7目	18科	24種		2種	2種	4種	3種

注1）種名及び学名は日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会 2012）に準拠した。

注2）重要種選定基準および各基準の指定ランクの略記号の説明は以下のとおりである。

1「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)、「北海道文化財保護条例」（昭和30年 北海道条例第83号）
特天：特別天然記念物(国指定)、国天：天然記念物(国指定)、 道天：天然記念物(道指定)

2「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年 法律第75号)
国内:国内希少野生動植物種、 緊急:緊急指定種

3「環境省レッドリスト2020」(令和2年環境省)
EX:絶滅、 EW:野生絶滅、 CR:絶滅危惧ⅠA類、 EN:絶滅危惧ⅠB類、VU:絶滅危惧Ⅱ類、
NT:準絶滅危惧、 LP:絶滅のおそれのある地域個体群、DD:情報不足

4「北海道レッドリスト【鳥類編】2017」(平成29年 北海道)
Ex:絶滅、 Ew:野生絶滅種、 Cr:絶滅危惧ⅠA類、 En:絶滅危惧ⅠB類、 Vu:絶滅危惧Ⅱ類、
Nt:準絶滅危惧、 N:留意、 Lp: 絶滅のおそれのある地域個体群、 Dd: 情報不足

希少種情報のため非公表

確認された影響[特になし]

・本保護林は、網走湖畔湿性地に大規模に群生するミズバショウ、ハンノキ、ヤチダモの生育地として保護されている森林である。

・大きな変化はなく天然更新も確認された。プロットによっては一部ハムシによる食害がみられたが、影響は小さいと考えられる。

・ミズバショウの生育は良好であった。

希少種情報のため非公表

・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

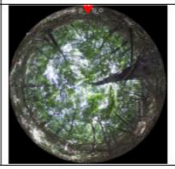
35 美咲地区海岸砂丘林希少個体群保護林

実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(2箇所)

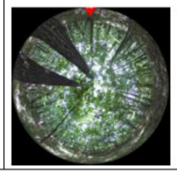
保護林の外観

保護林名		美咲地区海岸砂丘林希少個体群保護林			
プロットNo.		35-1		35-2	
旧No.		30611-1		30611-2	
調査日		2018/8/8	2023/6/19	2018/8/8	2023/6/19
プロット情報	標高	12m		20m	
	斜面方位、傾斜(平均)	S 1°		0°	
	局所地形	沖積堆積地		平坦尾根	
林分状況	【高】主要構成樹種	ミズナラ	ミズナラ	ミズナラ	ミズナラ
	【高】樹高	20m以上	20～28m	20m以上	14～21m
	【高】植被率	–	70%	–	80%
	【高】DBH	30cm以上	17～75cm	30cm以上	15～38cm
	【亜】主要構成樹種	イタヤカエデ	エゾイタヤ	イタヤカエデ	エゾイタヤ
	【亜】樹高	10m以上	7～19m	10m以上	6～11m
	【亜】植被率	–	10%	–	50%
	【亜】DBH	10～20cm	6～16cm	10～20cm	6～15cm
	【低】主要構成樹種	アズキナシ、ツリバナ	アズキナシ	イタヤカエデ	エゾイタヤ
	【低】樹高	1～5m	2～6m	1～5m	2～5m
	【低】植被率	–	5%	–	1%
	【低】DBH	5cm未満	2～5cm	5cm未満	2～6cm
	最大樹高樹種 樹高	ミズナラ 26.0m	ミズナラ 28.1m	– –	ミズナラ 21.5m
	最大直径樹種 直径	ミズナラ 72.8cm	ミズナラ 75.0cm	– –	キハダ 38.0cm
	気象害	–	–	–	–
	病虫害	–	–	–	–
	気象害等のコメント	–	–	–	–
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	–	食痕	–	食痕
	その他痕跡	–	–	–	–
	痕跡の程度	–	軽微	–	軽微
	痕跡のコメント	–	–	–	シカの樹皮食痕わずかにあり
林床植生	主要構成種 (主体は80%以上)	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体
	優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
	植被率	100%	90%	100%	80%
	植生高	–	0.1～1.0m	–	0.1～0.8m
	天然更新状況	普通に見られる	普通に見られる	普通に見られる	普通に見られる
保護林の状況		林床はクマイザサが密生するが、各種広葉樹の実生が見られる。	立木の生育は健全であり、ミズナラ、エゾイタヤ等の天然更新も見られる。	林床はクマイザサが密生するが、各種広葉樹の実生が見られる。	立木の生育は健全であり、ミズナラ、エゾイタヤ等の天然更新も見られる。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 ー:特になし		確認された影響[–] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[–] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[–] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[–] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

プロット35-1

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

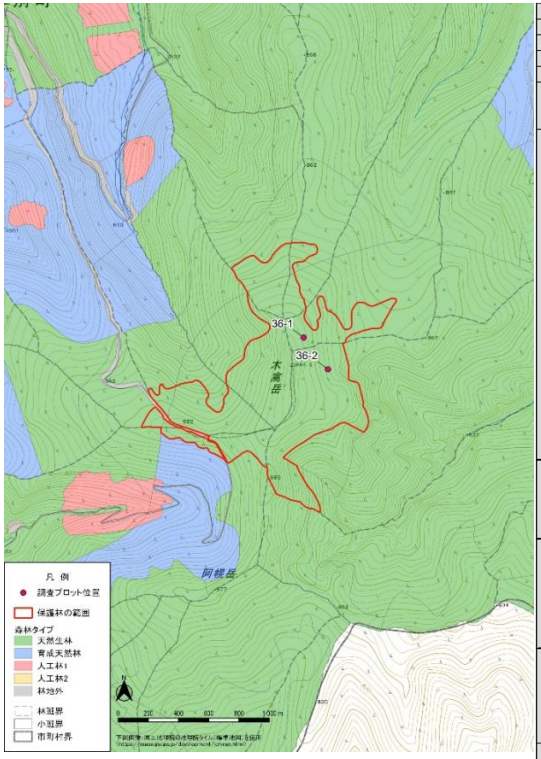
プロット35-2

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

確認された影響[特になし]
・本保護林はオホーツク沿岸の海岸砂丘林に自生するミズナラを主体とした広葉樹の生息地として保護されている森林である。
・大きな変化はなく、天然更新もみられ、非常に良好な林分であった。
・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

36 木禽岳アカエゾマツ希少個体群保護林

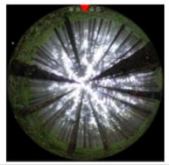
実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(2箇所)



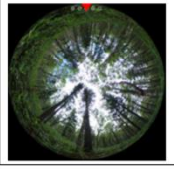
保護林名		木禽岳アカエゾマツ希少個体群保護林			
保護対象種		アカエゾマツ			
プロットNo.		36-1		36-2	
旧No		31612-1		31612-2	
調査日		2018/8/22	2023/8/8	2018/8/22	2023/8/8
プロット情報	標高	983m		944m	
	斜面方位、傾斜(平均)	E 23°		E 21°	
	局所地形	山腹平衡斜面		山腹平衡斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種	アカエゾマツ、ダケカンバ	アカエゾマツ、トドマツ	ダケカンバ、アカエゾマツ	アカエゾマツ、ダケカンバ
	【高】樹高	10～20m	14～20m	10～20m	13～21m
	【高】植被率	–	80%	–	70%
	【高】DBH	20～30cm	8～30cm	20～30cm	7～36cm
	【亜】主要構成樹種	なし	なし	ナナカマド	トドマツ、ナナカマド
	【亜】樹高	–	–	5～10m	4～10m
	【亜】植被率	–	0%	–	30%
	【亜】DBH	–	–	10～20cm	3～8cm
	【低】主要構成樹種	なし	なし	なし	なし
	【低】樹高	–	–	–	–
	【低】植被率	–	0%	–	0%
	【低】DBH	–	–	–	–
	最大樹高樹種	–	アカエゾマツ	–	アカエゾマツ
	樹高	–	20.0m	–	21.0m
	最大直径樹種	–	アカエゾマツ	–	アカエゾマツ
	直径	–	30.0cm	–	36.0cm
	保護対象種の本数割合	50～80%	50～80%	20～50%	20～50%
	気象害	–	–	–	風害(軽微)
	病虫害	–	–	–	–
	気象害等のコメント	–	–	–	風倒によるギャップあり
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	シカ道、食痕、目視	シカ道、糞、角研ぎ	目視	目視
	その他痕跡	キツツキ(食痕)	–	ネズミ類(食痕)	–
	痕跡の程度	–	軽微	–	–
	痕跡のコメント	エゾシカの個体4頭確認	アカエゾマツに角研ぎ痕あり	エゾシカの個体4頭確認	エゾシカの個体2頭確認
林床植生	主要構成種(主体は80%以上)	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体
	優占する植物種	ミヤコザサ	ミヤコザサ	クマイザサ	クマイザサ
	植被率	密生	90%	密生	100%
	植生高	0.5～1.5m	0.1～1.0m	0.5～1.5m	0.1～1.4m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種：少ない 保護対象種以外：多い	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種：なし 保護対象種以外：少ない
保護林の状況		高木層に少数エゾマツが混生する。天然更新はエゾマツが多い。	高木層にアカエゾマツが発達しており、亜高木、低木層はほとんどない。トドマツの天然更新は豊富。	アカエゾマツの天然更新は見られず、周辺の天然更新はエゾマツがほとんど。	アカエゾマツの天然更新は見られないが、トドマツのものは少数見られる。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然撹乱 カ:その他 －:特になし		確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

エゾヒョウタンボク

プロット36-1

項目	H30	R5	比較結果等
樹北方向			大きな変化はない。
樹東方向	写真なし		大きな変化はない。
樹南方向			大きな変化はない。
樹西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

プロット36-2

項目	H30	R5	比較結果等
樹北方向			大きな変化はない。
樹東方向	写真なし		大きな変化はない。
樹南方向			大きな変化はない。
樹西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

確認された影響[野生鳥獣]
・両プロットともに立木は健全であった。
・亜高木層以下の生育状況は良好ではなく、アカエゾマツの更新木はプロット36-1で少数みられる程度であった。
・保護林内全域においてエゾシカの痕跡が多く確認された。
・林内にはエゾノチチコグサなどの希少種も多く、アカエゾマツの更新にも影響が考えられるのでシカの食害には留意が必要である。
・シカの食害に留意しつつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

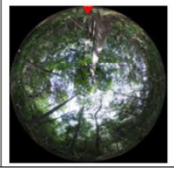
37 浜小清水ヤチダモ等希少個体群保護林

実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(2箇所)

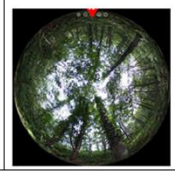
ヤチダモの実生

保護林名		浜小清水ヤチダモ等遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		ヤチダモ、ミズナラ			
プロットNo.		37-1		37-2	
旧No.		31613-1		31613-2	
調査日		2018/8/7	2023/6/20	2018/8/7	2023/6/20
プロット情報	標高	7m		11m	
	斜面方位、傾斜(平均)	0°		0°	
	局所地形	平坦地		平坦地	
林分状況	【高】主要構成樹種	ヤチダモ	ヤチダモ	ヤチダモ	ヤチダモ
	【高】樹高	20m以上	18～32m	20m以上	20～25m
	【高】植被率	–	90%	–	90%
	【高】DBH	30cm以上	16～72cm	30cm以上	18～60cm
	【亜】主要構成樹種	イタヤカエデ	エゾイタヤ	イタヤカエデ	エゾイタヤ
	【亜】樹高	10m未満	6～14m	10～20m	7～15m
	【亜】植被率	–	70%	–	40%
	【亜】DBH	10～20cm	8～20cm	10～20cm	10～19cm
	【低】主要構成樹種	ハンノキ、ハシドイ	オオツリバナ	イタヤカエデ	エゾイタヤ
	【低】樹高	5m以上	2～5m	1～5m	2～5m
	【低】植被率	–	60%	–	20%
	【低】DBH	5～10cm	2～6cm	1～5cm	2～6cm
	最大樹高樹種	–	ヤチダモ	–	ヤチダモ
	樹高	–	32.0m	–	25.0m
	最大直径樹種	–	ヤチダモ	–	ヤチダモ
	直径	–	71.9cm	–	60.0cm
	保護対象種の本数割合	–	20%以下	–	20～50%
	気象害	–	–	–	–
	病虫害	–	–	–	–
	気象害等のコメント	–	–	–	–
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	–	–	–	–
	その他痕跡	–	–	–	–
	痕跡の程度	–	–	–	–
	痕跡のコメント	–	–	–	–
林床植生	主要構成種（主体は80%以上）	草本類主体	草本類主体	草本類主体	草本類主体
	優占する植物種	エゾイラクサ	オシダ	クサソテツ、フッキソウ	オオアマドコロ
	植被率	100%	90%	90%	80%
	植生高	–	0.1～2.0m	–	0.1～1.0m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種：普通 保護対象種以外：多い	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種：普通 保護対象種以外：多い
保護林の状況		林床のササ密度は低く、ヤチダモ、ミズキ、ハイイヌガヤなどの実生が見られる。	ヤチダモは主に高木層で見られ、健全林分である。林床植生は豊富で、天然更新も盛んに行われている。	林床のササ密度は低く、ヤチダモ、ミズキ、ハイイヌガヤなどの実生が見られる。	ヤチダモは主に高木層で見られ、健全林分である。林床植生は豊富で、天然更新も盛んに行われている。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア：野生鳥獣　イ：病虫害　ウ：外来種 エ：温暖化　オ：自然攪乱　カ：その他 －：特になし		確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

プロット36-1

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

プロット36-2

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

確認された影響[特になし]
・本保護林はヤチダモ、ミズナラ等の希少個体群の生育地として保護されている森林である。
・天然更新もみられ、非常に良好な林分であった。
・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。